

# 葵

56号 令和4年度



# 目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 柴 雅房	1	
I 当館の概要（令和4年度）		2	
1 沿革	2 令和4年度基本方針・事業体系	3 組織図	
4 職員	5 予算	6 資料 (1)収集基本方針 (2)資料概要	
II 事業報告（令和3年度）		12	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和3年度）		13	
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組		
(3) 県内市町等の新図書館設置の動き	(4) 静岡県の新型コロナウイルスの影響		
(5) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催			
2 利用状況統計		19	
(1) 県立中央図書館利用状況	(2) 協力貸出	(3) レファレンス	
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	(5) 歴史文化情報センター利用状況	(6) 電子図書館利用状況	
3 図書館資料充実状況		22	
(1) 図書資料	(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等		
(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌）	(4) 電子書籍		
4 図書班		25	
(1) 図書資料の充実	(2) 視聴覚資料の充実	(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）	(5) 子ども図書研究室		
(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」	(7) 静岡県視聴覚ライブラリー	(8) 展示他	
5 新聞雑誌班		33	
(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実	(2) 提供情報の充実	(3) その他	
6 一般調査班		35	
(1) レファレンスサービス	(2) 市町立図書館などへの支援		
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	(4) その他の関連事業		
7 地域調査班		40	
(1) 地域資料の充実	(2) 提供情報の充実	(3) 資料展示	
(4) 市町立図書館への支援	(5) 地域資料のデジタル化	(6) 歴史文化情報センター	
8 企画班		43	
(1) 図書館職員研修	(2) 利用者からの意見	(3) イベント等	(4) 図書館サポーター
(5) 職場体験学習等	(6) 図書館広報	(7) ムセイオン静岡	(8) 浙江図書館との友好提携
(9) 山梨県立図書館との連携協定	(10) 市町立図書館等受取サービス		
付属資料 令和3年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果			
9 振興班			54
(1) 市町立図書館振興	(2) 関係団体との連携	(3) 協力車事業	
(4) 令和3年度 静岡県図書館大会	(5) 表彰（敬称略・関係団体の表彰も含む）		
10 総務班			58
(1) 図書館協議会	(2) 施設設備の維持管理	(3) 施設利用状況	
11 健康医療情報サービス			60
(1) サービス内容	(2) 関連事業		
12 歴史文化情報センター（地域調査班）			61
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開	(2) 利用状況		
13 資料紹介 近代行政文書について（2）			62
14 新県立中央図書館 DX 検討に関する有識者会議報告書			66
III 特集 貴重書研究「葵文庫（江戸幕府旧蔵書）の洋学資料～近代化をめざした江戸幕府～」			72
IV 施設及びサービス案内（令和4年度）			80
1 図書館配置図	2 施設の概要	3 ブラウジング・閲覧室案内図	4 利用案内（令和4年度）
表紙	『上村翁旧蔵浮世絵集』	奥付	

## 県立中央図書館の役割

静岡県立中央図書館長 柴 雅房

22年ぶりに静岡県立中央図書館に戻ってきました。長く離れていましたが、この間私は図書館との関係を、一利用者としてより深めてきたと思います。

自宅から歩いて行ける範囲に伊豆の国市立葦山図書館ができた時は我が家の書架が増えたような気分で小躍りして喜んだものです。今でも好きな作家の小説や雑誌を頻りに借りに行きます。子供が幼いころには、児童図書コーナーに随分お世話になりました。図書館に行けば単調になりがちな日常に、何か新しい刺激が得られるのでは、という期待が常にあります。

私の利用する図書館は一つではありません。函南町立図書館は車で買い物に行く程度の範囲にあります。ここでは豊富な雑誌を読ませてもらい、調べものにも活用しています。レファレンスをお願いすることもあります。通勤途中にある三島市立図書館、沼津市立図書館など市街地の図書館は、蔵書もさらに豊富で、県立中央図書館の県内図書館一括検索システム「おうだんくんサーチ」を活用して目当ての本をあらかじめ確認して借りに行きます。私は用途に応じて様々な図書館を活用しています。

一方で、私は書店にも足繫く通います。書籍通販サイトもよく利用します。通販サイトも日々進化し、おすすめの本の紹介や目次等を読ませる機能は図書館でのブラウジングにより近づいている気がします。

さらに、インターネット検索を使えば、必要な「情報」がダイレクトに手に入ります。デジタル化された文献が直接掲載されていたりします。最近本を開くこと自体に煩わしさを感じる自分に気付き、愕然としました。もはや紙の本は「情報」にアクセスするための一つの手段にすぎなくなりました。

そして県立図書館です。市町立図書館が社会に不可欠なインフラとして広く認知され、インターネットサービスが高度化する中でも私にとって県立図書館の存在が消えることはありませんでした。調査研究図書館としての「最後の砦」である県立図書館は、過去から現在までの知の体系を体現するもので、それは新しい創造を生み出す源泉でもあります。

私と県立図書館の出会いは中学校にさかのぼります。初めて館内に入った時の厳粛な雰囲気、(当時の感覚では) 気の遠くなるような数の書架と本、手に取った本の難解さに私はいたく感動したものです。それは、この世の「知の世界」の広がりや深さを身をもって感じたことによるものでした。今思えば、子供っぽい感傷ですが、県立図書館の本質は案外そこにあるのかもしれない。

久しぶりの図書館では新館建設に向け、職員の間にも高揚した雰囲気が感じられます。本年2月には設計者選定のプロポーザルが終了。今年度からいよいよ設計が始まります。新しい図書館は十分な開架スペースを有し、立地はアクセス抜群の東静岡駅前です。図書館のイメージは大きく変わるものと思われます。一方で、新館のサービスは現在のサービスの延長線上にあります。時代の変化の中で、利用者としての視座を忘れずに、職員とともに県立図書館の在り方について今後も模索し続けていきたいと思っています。

# I 当館の概要（令和4年度）

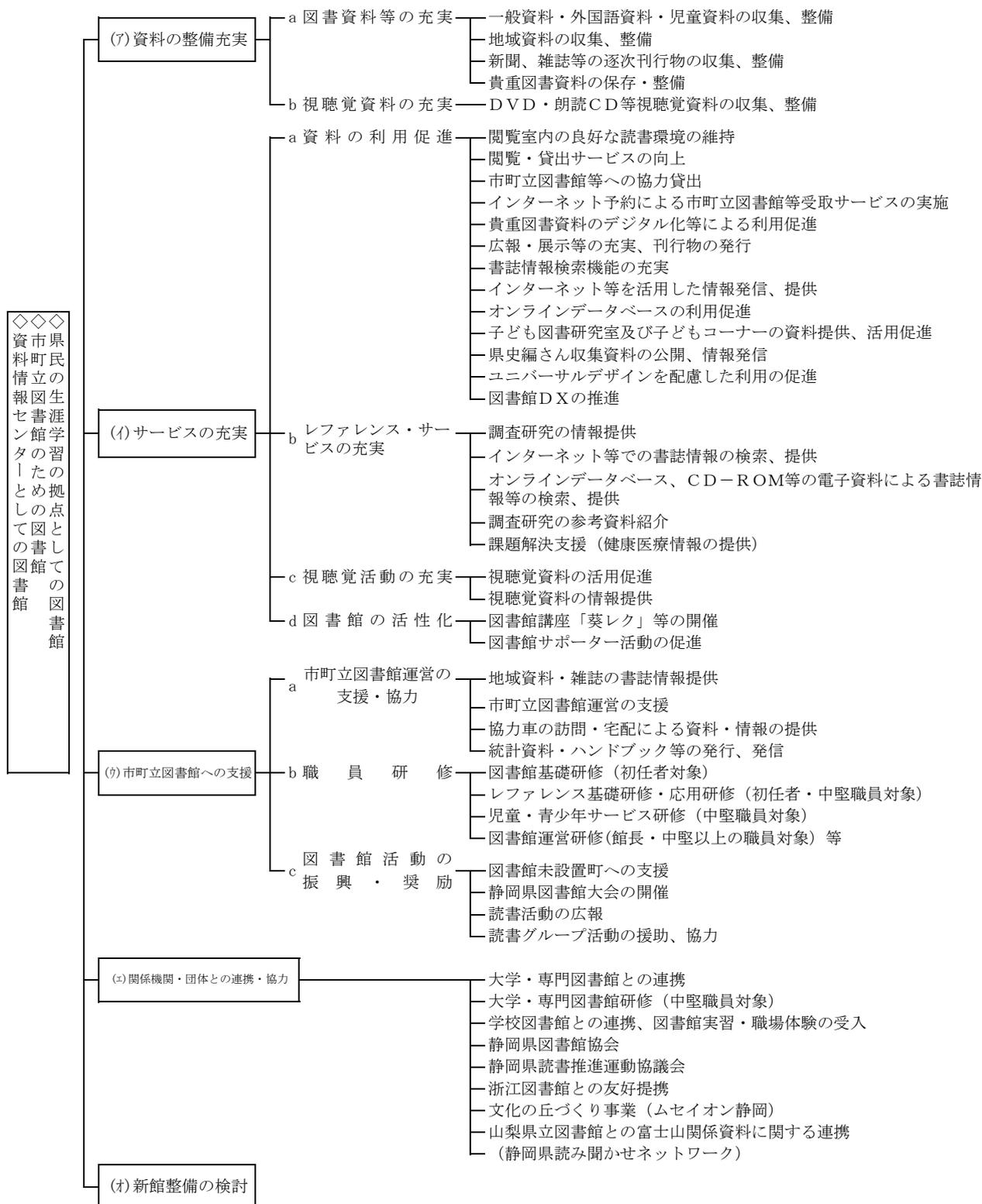
# 1 沿 革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙行
昭和12年8月30日	ショームルの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定 され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙行。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

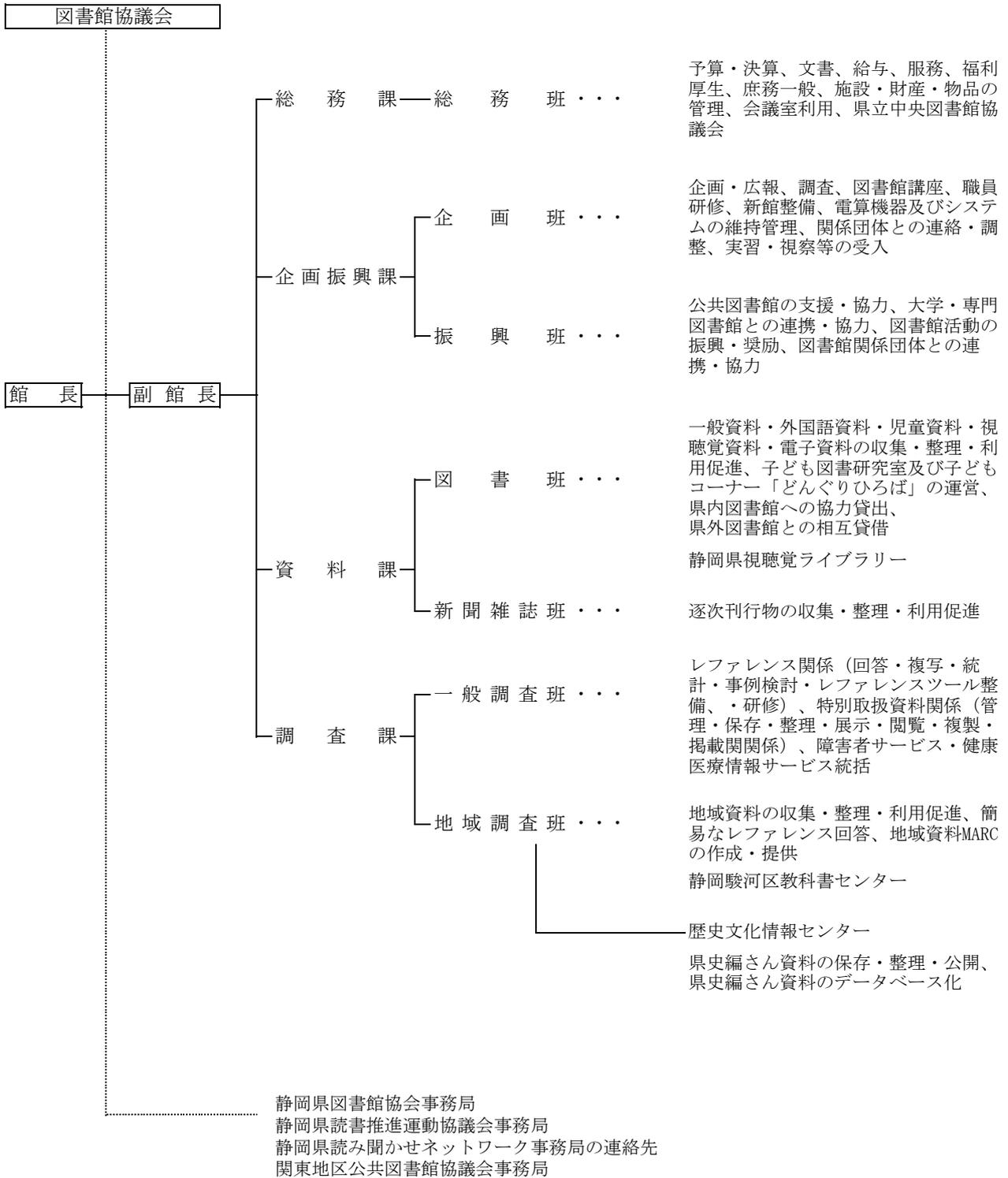
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成17年 9月 1日	『「しずおか」の貴重書』刊行
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成21年10月 2日	『「しずおか」の貴重書（改訂版）』刊行
平成21年10月15日	『関口隆吉関係書簡集』発行
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更。
平成22年 3月31日	耐震補強工事関連作業及びシステム更新作業のため休館（～5月31日）
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能に。
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダ

	ービー」開催（～9月）
平成24年7月7日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年3月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年4月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年2月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年4月1日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年6月2日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年8月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年2月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年4月	祝日開館開始
平成28年6月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年7月4日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年3月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年4月1日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年5月7日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年2月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年3月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年3月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月11日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～令和2年2月25日）
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館
令和2年3月	「新県立中央図書館管理運営計画」策定
令和2年4月18日	新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館（～5月11日） （4/18～4/27はシステム更新による休館）
令和2年8月	「新県立中央図書館基本計画」改訂
令和2年9月7日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室
令和2年10月1日	子どもコーナー「どんぐりひろば」開設
令和2年12月1日	令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会開催（～12月4日、ライブ配信）
令和3年3月	「新県立中央図書館整備計画」策定 「県立中央図書館司書育成指針」策定
令和3年9月	「新県立中央図書館整備計画」「新県立中央図書館管理運営計画」更新
令和3年10月1日	電子図書館サービス開始
令和4年3月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂

## 2 令和4年度基本方針・事業体系



### 3 組 織 図



## 4 職 員

館 長 柴 雅 房			
副 館 長 殿 岡 容 子			
総 務 課	総務課長(兼)		殿岡容子(副館長)
	総務班	総務班長	遠藤 一穂
		主 査	真野 聡
		主 査	中野 卓哉
		主 事	鈴木 章浩
	主 任	松村 裕理	
企 画 振 興 課	企画振興課長		田 辺 章
	企画班	企画班長	青木 修
		主 査	佐野 加代子
		主 任	杉本 啓輔
	主 事	花村 拓海	
資 料 課	資料課長		木 村 知 美
	図書班	図書班長代理	三枝 春奈
		主 査	安田 宏美
		主 任	山下 紗織
		主 事	上村 まりを
		主 任	眞子 みな
技 能 員	加藤 桂子		
調 査 課	調査課長兼一般調査班長		仲 村 修 也
	一般調査班	主 査	山田 直美
		教育主査	西澤 健太
		主 任	原島 勇太
		主 任	飯塚 吉夢
		地域調査班長	鈴木 由美
		教育主査	風間 祥子
		主 任	牧田 佳子
		主 任	前林 真美
		(歴史文化情報センター)	
		教育主幹	望月 克洋
		主 任	飯塚 晴夫
		主 任	大林 元

## 5 予 算

(単位：千円)

事業名	R4 予算額	説明(図書館が行う事業)
県立中央図書館管理運営費	95,093	・ 図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・ 県立中央図書館の利用者に快適な読書環境を提供するための、施設等維持管理に要する経費
県立中央図書館資料充実費	91,000	・ 図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費（電子書籍6,000含む）
合 計	186,093	

## 6 資 料

### (1) 収集基本方針

#### ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

#### イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに1部収集する。なお、15歳から18歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

#### ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

#### エ 逐次刊行物（新聞、雑誌）

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

#### オ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

#### カ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の国際理解や日本理解及び生涯学習を援助し、また外国語を通しての読書及び基本的な調査研究の機会を提供する目的で収集する。

#### キ 電子書籍

「学習」、「仕事」、「QOL(生活の質)向上」を主なテーマとし、高校生・大学生から社会人の「次の一歩」を支援する資料を収集する。

#### ※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種関係機関との機能を考慮している。

## (2) 資料概要

### ア 一般資料

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、学術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

### イ 児童図書

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

### ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

### エ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

### オ 視聴覚資料(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

### カ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

### キ 電子書籍

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、学術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

### ク 特殊コレクション等

#### (ア) 特殊コレクション

資料名	受入時期	旧所蔵/寄贈者	概要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる(『江戸幕府旧蔵書目録』(葵文庫)(昭和 45 年 4 月 18 日発行)による)。</li><li>・明治元年府中(静岡)藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。</li></ul>
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 25	関口壮吉 関口隆克	<ul style="list-style-type: none"><li>・第 3 代静岡県令(初代県知事)関口隆吉収集の図書</li><li>・文書・記録類 837 部 2,455 冊からなる。</li><li>・図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。</li><li>・文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。</li><li>・隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「</li></ul>

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
			久能文庫」として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	・上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	・山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	・内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 ・軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、 学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	・静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) 〔<sup>やま なし とう せん</sup>山梨稲川〕(1771～1826) 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

〔<sup>うちや まま たつ</sup>内山真龍〕(1740～1821) 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編．静岡県歴史人物事典．静岡新聞社，1991．

## Ⅱ 事業報告（令和3年度）

# 1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和3年度）

## (1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き

### ア 公立図書館の現状

令和3年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、令和元年度から令和2年度に市区立が1増加、町村で2増加、令和2年度から令和3年度に町村で4増加して1,392、設置率は77.9%である。また、図書館数は、前年度から市区立が6減少、町村で6増加して3,297である。全体的には令和元年度から13増となっているが、市区立は減少に転じている。昭和25年の図書館法制定から71年が経過し、設置町村は増えているが設置率は58%と前年と変わらず全国的にはまだ低い状況にある。また、一般財団法人地方自治研究機構は、令和3年5月15日（9月10日更新）に、図書館法第10条や地方自治法第244条の2第1項に基づき制定される、図書館の設置等に関する条例の動きをまとめている。

([http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/095\\_library.htm](http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/095_library.htm))

指定管理者制度をめぐる現状としては、「図書館における指定管理者の導入等の調査について2020（報告）」（日本図書館協会図書館政策企画委員会）によると、令和2年度までに導入した館は、都道府県立図書館では施設管理のみの指定管理者も含め7館、市区町村立図書館では271自治体、632館となっている。県内の市町立図書館は、昨年度からの変化はなかった。

### イ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応に追われる1年となった。令和2年度の緊急事態宣言時には休館する図書館が多かったが、令和3年度は閲覧席の間引きや視聴覚ブースの休止など一部サービスの制限を行い、多くの館で換気・消毒の感染対策を行いながら開館を継続した。令和3年10月、公益社団法人日本図書館協会は令和2年5月に策定した「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を、感染力の強いデルタ株の感染拡大を踏まえ、感染リスクが高まる5つの場面を考慮して更新した。

一方、山梨県立図書館のようにコロナワクチンの大規模接種会場となる図書館があった。令和4年1月頃からの従来株とオミクロン株の感染拡大による第6波では、保健所業務の職員応援体制充実のため、杉並区立図書館のうち3館や葛飾区立図書館全館を休館したり、岡山市業務継続計画（BCP）に基づき岡山市立図書館を臨時休館したりする対応がとられた。本県でも一部自治体で市町立図書館職員を保健所等へ応援派遣するなどの措置がとられた。

コロナ禍で非接触・非対面、来館不要の電子図書館サービスは全国的に導入が進んでいる。一般財団法人電子出版制作・流通協議会の調査によると、公共図書館の電子図書館サービス（電子書籍貸出サービス）実施図書館は、令和2年4月時点では94自治体であったが、令和4年1月現在では272自治体と急増している。また、図書館のデジタルシフトも進み、北海道恵庭市立図書館恵庭分館「手のひら認証システム」（静脈認証による貸出）、大阪府泉大津市立図書館の図書館案内ロボット、福井県敦賀市立図書館「敦図アプリ」（スマホアプリ）、熊本県立大学図書館のVTuberによる図書館動画、東京学芸大学図書館「デジタル書架ギャラリー」、武庫川女子大学附属図書館のAI顔認証入退管理システム、秋田県横手市の蔵書点検ロボットの実証実験、東京都立図書館「チャットボットサービス」（都立図書館利用案内Q&A）などが行われている。研修会や講演会をオンラインで行うことが増えており、札幌市中央図書館では「絵本読み聞かせ動画配信」、京都市図書館では「オンライン対面朗読サービス」が行われている。また、沖縄県立図書館は利用者負担による本の宅配サービス、愛知県図書館はオンラインによる利用登録を開始した。

令和4年1月に公開した国際図書館連盟（IFLA）の図書館データのオープン化に関する声明では、図書館が持つ「サービスを提供することで、人々が必要な情報を必要な形式で入手することを助

ける」という役割を強調し、「財政的、技術的、法的制約なく、公共のデータや情報へのアクセスを保証すること。政府情報がアクセス可能で利用できるようにするため、公共図書館やその他の図書館を早い段階からオープンガバメントに関する政策に関わらせること。」などを勧告している。国際日本文化研究センター「絵巻物データベース」のIIIF対応、福井大学附属図書館や信州大学附属図書館の「オープンアクセス方針」の策定、奈良県立図書情報館「まほろばデジタルライブラリー」のクリエイティブ・コモンズ(CC)ライセンスでの提供、民間企業ではあるが大日本印刷(DNP)がIIIFに準拠した「秀英体・活版印刷デジタルライブラリー」を公開した。フェイクニュースなどが氾濫する今日において、公共機関が提供する情報のオープン化の重要性が増してきている。

## ウ 読書バリアフリー法

令和元年6月28日に公布された「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」(読書バリアフリー法)第8条第1項には、地方公共団体に対し「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。」とある。これを受け、令和3年3月に大阪府や鳥取県では「視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」、令和3年7月には徳島県で「徳島県読書バリアフリー推進計画」が策定されている。埼玉県では、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する施策を「第6期埼玉県障害者支援計画(令和3年度～令和5年度)」に含めるなどの対応をとっている。岡山県や滋賀県などが令和4年から適用できるよう策定に向けた対応をとっている。このような動きは今後更に全国に広がっていくと考えられる。

計画の策定に当たっては、令和2年12月に文部科学省から「視覚障害者等の読書環境の整備の推進における留意事項について」の事務連絡が発出されている。

## エ 著作権法改正

デジタル化・ネットワーク化への対応とともに、コロナ禍により、国立国会図書館や公共図書館、大学図書館等に来館せずに利用できるデジタル化資料へのニーズが、研究者・学生等の個人から高まった。これを受け、図書館等が著作物の公衆送信等を行うことができるよう「著作権法の一部を改正する法律」が令和3年5月26日参議院で可決・成立し、令和3年6月2日に公布された。「国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信(第31条第7項～第11項関係)」は公布日から1年を超えない範囲内で、「各図書館による図書館資料のメール送信等(第31条第2項～第5項関係)」は公布日から2年を超えない範囲内で政令で定める日に施行されることとなった。

令和4年2月1日、国立国会図書館は、デジタル化した資料のうち絶版等資料をインターネット経由で個人に送信する「個人向けデジタル化資料送信サービス(略称:個人送信)」を令和4年5月19日から開始すると発表した。サービス開始当初は閲覧のみだが、令和5年1月を目途に印刷機能の提供を開始することも併せて発表した。サービスの利用には「個人の登録利用者」が対象となり「インターネット限定登録利用者」は対象外となるので注意が必要である。

## オ 出版界等の動き

公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所は令和4年1月、『出版月報』1月号(1月25日発売)で2021年の出版市場規模を発表した。紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年比3.6%増の1兆6,742億円と3年連続でプラス成長、電子出版は前年比18.6%増の4,662億円と大幅に増加した。紙の出版物は前年比1.3%減の1兆2,080億円であった。



## カ 図書館 DX

当館では図書館 DX 実証実験として貸出カードのスマホ表示、利用者登録等 Web 申込、電子図書館の導入を行った。詳細については『静岡県立中央図書館 Web サービス拡充事業の事業報告及びその課題：図書館 DX 実証実験を中心に』（専門図書館, No. 307, p26-31）を参照してほしい。併せてインターネット上に公開されている静岡県内自治体の行政資料 PDF を自動で収集するクローラのシステム開発を行った。また、非来館者サービスとして実施している市町立図書館等受取サービスでは、令和 2 年 12 月に下田市、焼津市、湖西市を追加し、令和 3 年 4 月に県民サービスセンターを受取館として追加した。

## キ 子ども読書活動推進計画

静岡県では、『「本とともだち」プラン（静岡県子ども読書活動推進計画-第三次計画-）』に基づき、子どもの読書活動を推進するための取組を行っている。第三次計画（平成 30 年度から令和 9 年度まで）の策定から 4 年が経過したことから、これまでの取組を踏まえたうえで、社会の変化に対応した計画の見直しを行い、令和 4 年 1 月 19 日から令和 4 年 2 月 9 日の間にパブリックコメントを実施し、令和 4 年 3 月に『「本とともだち」プラン（第三次静岡県子ども読書活動推進計画-後期計画-）』を策定した。

### (2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

令和 3 年度から県教育委員会社会教育課内に新図書館整備室が設置され、運営企画班と施設整備班の 2 班体制で新図書館の整備を進めることになった。

建築設計者の選定は、コストと性能を担保しつつ、より良いアイデアを柔軟に受け入れて新図書館が目指すべき姿を実現できるよう、公募型プロポーザル方式を採用した。具体的には、公募に先立ち、プレ・デザインの手法により、事前に設計の諸条件を整理し、要求水準（目標とする性能）を具体的に提示することで提案者とのイメージ共有を図るとともに、試設計モデルをベースに概算工事費を算出させ、予算内に収まっていることを確認した。

プロポーザル実施にあたっては、建築や図書館に見識のある委員により構成された審査委員会を組織して審査を行った。

審査委員会

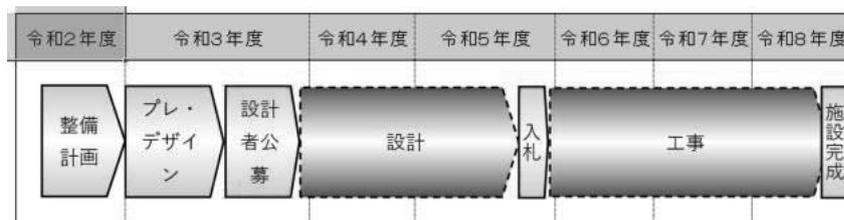
(敬称略)

分野	区分	氏名	所属・職名
建 築	委員長	長谷川 逸子	長谷川逸子・建築計画工房（株）代表取締役
	副委員長	北山 恒	横浜国立大学 名誉教授
	委員	千葉 学	東京大学大学院工学系研究科 教授
	委員	貝島 桃代	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授
図 書 館 等	委員	古瀬 敏	静岡文化芸術大学 名誉教授
	委員	岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド（株）代表取締役
	委員	是住 久美子	田原市図書館 館長
	委員	難波 喬司	静岡県副知事

提案募集の公告を令和 3 年 10 月 1 日、1 次審査を 12 月 2 日に行い、書類審査により 21 者の提案書から 2 次審査に進む 6 者を選定した。その後、2 次審査として令和 4 年 2 月 19 日にグランシップを会場に公開プレゼンテーション及び審査委員会によるヒアリングを行った。その際には、県民が傍聴できるようサテライト会場を設置し、プレゼンテーションの動画も後日配信した。審査委員会による審議の結果、最も優れた提案をした者として「C+A\*・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」を特定し、3 月 30 日に設計業務委託契約を締結した。令和 4 年度は、同事業

者と基本設計及び実施設計を進め、令和5年9月までに業務を完了させる予定である。

※C+A：シーラカンズアンドアソシエイツ



また、新図書館に向けた図書館電算システムについて、技術動向の調査や先進事例調査・ヒアリング等の調査を取りまとめた「静岡県立中央図書館新システム基本構想」の策定を進めた。併せて、アフターコロナに対応した図書館として、新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議を開催し、新図書館におけるDXの方向性について協議するとともに、DXに対応したこれからの図書館サービスや電算システムのあり方などについて「新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議報告書」として委員会の提言をとりまとめた。

### (3) 県内市町等の新図書館設置の動き

#### ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	60	59	59	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	94	93	93	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門30、合計126館（分館を含む）

#### イ 新図書館設置の動き等

清水町立図書館と保健センターの複合施設「まほろば館」は、令和2年7月の開館から9か月で来館者10万人を達成した。牧之原市は、相良図書館を官民連携の複合施設「ミルキーウェイクエア」内に移転し、牧之原市立図書交流館（愛称：いこっと）として令和3年4月17日開館、令和4年2月6日に来館者10万人を達成した。御殿場市は、7月、令和3年度から令和5年度にかけて実施する「御殿場市立図書館等基本計画及び基本・実施設計業務委託」について、公募型プロポーザルを実施し、令和4年1月事業者決定を行った。伊東市は、「伊東市新図書館基本構想」を令和3年3月に策定し、4月に令和3年度から令和4年度にかけて実施する「伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務」について、公募型プロポーザルを実施し、令和3年7月事業者決定を行い、令和4年1月に「伊東市新図書館基本計画」を策定した。令和4年度に実施設計、令和5年度から建築工事を行い、令和7年1月の開館を目指している。

静岡市立中央図書館は、令和3年8月5日リニューアルオープンにより、公園の風景を見ながら本が読める読書席や城北公園側に出入口の新設、電気・機械・空調等の設備の更新とともに照明のLED化、トイレリフレッシュ工事、授乳室の新設を行った。浜松市立中央図書館は、施設の老朽化による大規模改修工事を令和3年5月24日から令和4年7月までの予定で実施している。工事期間中は近隣ビルに臨時窓口を設置し、予約対応、返却受付、利用者登録、郷土関係レファレンスを行っている。

静岡社会健康医学大学院大学は、4月の開学とともに附属図書館を開館した。平成30年8月に開館した子育て支援と図書館の機能を持つ「磐田市ひと・ほんの庭にこっと」は令和3年11月28日に来館者50万人を達成し、記念セレモニーを開いた。

#### (4) 静岡県の新型コロナウイルスの影響

##### ア 県内図書館の状況

県内図書館において電子図書館・動画公開・Web講演会など非来館サービスの提供を行う館が増え始めるとともに、貸出冊数や期間を増やす取組みもみられた。また、館内の消毒だけでなく、サーマルカメラや空気清浄機を導入するなど各館で感染対策を続けている。令和3年度子供の読書活動優秀実践校図書館文部科学大臣表彰は、藤枝市立図書館が代表授与の図書館となった。4月23日に行われた子ども読書活動推進フォーラムは、感染拡大の影響でオンラインに変更となり、事例発表はYouTubeで公開された。

感染の第3・4波ともに、静岡県は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置には至らず、夏に向けておはなし会や来館イベントを再開していったが、7月下旬からの第5波で感染が急拡大した。8月8日には県東部・伊豆地域と静岡市、浜松市にまん延防止等重点措置が適用され、その後中・西部の他市町にも適用された（川根本町除く）。8月20日には静岡県に緊急事態宣言が発出され、おはなし会や来館イベントは中止や延期となった。そのような中、市町立図書館（室）の臨時休館は南伊豆町立図書館と川根本町文化会館図書室のみ（ともに緊急事態宣言中の9月12日まで）で、他の市町立図書館は閲覧席や学習席の利用中止など一部サービスを制限しつつ開館を続けた。

この期間に浜松市立中央図書館は、コロナ禍で外出を控える市民を対象に、有料宅配サービスを9月1日から試行した。また、10月に掛川市立図書館が電子図書館サービスを開始するなど、コロナ禍で運営に苦戦しつつも新しいサービス導入の動きも見られた。

10月1日に緊急事態宣言が解除されると、おはなし会や来館イベントを再開し、閲覧席や学習室も多く館で利用できるようになった。11月19日の新たな「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の決定を受け、牧之原市立図書館は12月1日から閲覧席と学習席を通常の座席数に戻した。令和4年1月には感染力の強いオミクロン株の流行から感染の第6波が発生し、静岡県でも一日の感染者が1,000人を超え、1月27日から3月21日まで県内全域にまん延防止等重点措置が適用された。今回の適用では、空気清浄機を設置するなど感染対策を強化した上で、おはなし会や来館イベントを継続する館も増えた。

なお、令和3年度県内図書館の新型コロナウイルス感染症への対応は、「静岡県図書館協会報 No. 79」（静岡県図書館協会 令和4年3月発行）に詳細に記載されているので参照してほしい。

##### イ 新型コロナウイルス感染症対策に伴う当館の取組

期間	項目	対応内容
令和3年 2/8～	警戒レベル4 (県内警戒、県外警戒)	子どもコーナー「どんぐりひろば」おはなしかい中止
4/6～		子どもコーナーおはなしかい再開（講堂）
5/14～	警戒レベル5 (特別警戒)	子どもコーナーおはなしかい中止
8/8～	警戒レベル6 (厳重警戒) まん延防止等重点措置 (県内静岡市ほか)	休憩コーナー閉鎖 クイックレファレンス
8/20～	警戒レベル6 (厳重警戒) 静岡県緊急事態宣言	学習コーナー閉鎖、閲覧室座席追加間引き 夜間開館中止
9/24～	警戒レベル5 (特別警戒)	(予約本受取、電話によるレファレンスは対応)

10/1～	警戒レベル4 (県内警戒、県外警戒) 緊急事態宣言解除	閲覧席座席一部復旧、OPAC 全台復旧 子どもコーナーおはなしかい再開 (講堂) 夜間開館再開 学習コーナー、休憩コーナー開放 (一部椅子の制限)
10/15～	警戒レベル3 (県内注意、県外一部警戒)	
10/22～	警戒レベル2 (県内注意、県外注意)	
12/3～	国評価レベル1 (維持すべきレベル)	
12/7～		閲覧室座席 15 席増 (1/17～1/28 蔵書点検のため休館)
令和4年 1/11～	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	
1/27～		休憩コーナー閉鎖 クイックレファレンス 子どもコーナーおはなしかい中止 子ども図書研究室ツアー中止
1/29～	まん延防止等重点措置 (県内全市町)	
3/23～	まん延防止等重点措置 解除	休憩コーナー開放 レファレンス再開 子どもコーナーおはなしかい再開 子ども図書研究室ツアー再開

## (5) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催

### ア 第28回静岡県図書館大会

令和3年11月8日(月)から10日(水)にかけて、当館を運営会場として図書館大会を初のオンラインにて開催し、全体会と4つの分科会で累計1,463人の参加があった。Zoomウェビナー契約に人数制限があるため、一般参加者を募らず、静岡県図書館協会加盟館、学校、教育委員会のみに参加者募集を行った。また、各市町立図書館には、サテライト会場の設置を依頼し開催した。

表彰式は行わず、各会終了後に写真と音声で表彰団体の紹介を行った。主催者挨拶及び来賓祝辞は事前録画を行い、各会開始前に映像を配信した。運営は講師とZoomで繋ぎライブ配信を基本としたが、全体会の県内図書館事例発表は一部事前録画とした。例外として、第2分科会は講師が県立中央図書館に来館し、ライブ配信を行った。

また、12月12日から1月11日までの間、加盟館職員に限りYouTube限定配信を行った(累計閲覧回数179回、第1分科会を除く)。

### イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、全体研修会に日本学校図書館学会理事 静岡県支部長の本田彰氏を講師招聘し「読み聞かせと学校図書館」を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため規模を縮小しての開催となったが、当館はまん延防止等重点措置期間中に集合による主催事業は行わないという方針により共催を見送った。

また、静岡県読書推進運動協議会は、静岡県図書館大会を共催し、理事が第2分科会「子どもの読書活動」を担当した。例年実施している、夏休み子ども図書ウィークは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「折り紙遊び教室」の実施と「ユニバーサルデザイン絵本」の作品展示のみ実施し、そのほかの事業は中止となった。

## 2 利用状況統計

### (1) 県立中央図書館利用状況

令和3年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

年・月	開館日数	入館者数		新規登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
3・4	26	12,392	477	148	1,915	9,387	802	312	10,501
3・5	28	13,966	499	192	2,032	10,055	886	337	11,278
3・6	27	13,314	493	206	2,018	9,231	835	360	10,426
3・7	28	14,984	535	306	2,310	10,765	907	352	12,024
3・8	27	16,182	599	194	2,034	9,748	802	300	10,850
3・9	27	13,026	482	149	2,010	9,611	817	278	10,706
3・10	28	14,677	524	192	2,051	10,051	883	224	11,158
3・11	25	13,334	533	180	1,853	8,797	837	262	9,896
3・12	25	11,405	456	120	1,868	9,260	844	206	10,310
4・1	14	7,220	516	135	1,402	7,709	692	178	8,579
4・2	25	11,907	476	136	1,904	9,024	828	253	10,105
4・3	28	12,487	446	133	1,824	9,049	782	237	10,068
合計	308	154,894	503	2,091	23,221	112,687	9,915	3,299	125,901

令和3年度末有効登録者数	81,900
--------------	--------

上段:本館 下段:(4~9月までのグランシップ「えほんのひろば」の利用状況)

R2年度	289	119,625	414	1,694	20,066	95,837	9,719	3,393	108,949
小計	122	2,168	18	43	689	6,082	128	2	6,212
合計		121,793		1,737	20,755	101,919	9,847	3,395	115,161

令和2年度末有効登録者数	79,809
--------------	--------

※貸出人数、貸出数には継続貸出を含む。また、Webからの継続貸出数はすべて本館にカウントする。

## (2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		3 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	392	403	434	439	442	378	447	368	316	390	424	383	4,816
	雑 誌	52	38	31	46	55	32	61	29	11	30	32	78	495
	視聴覚	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	4
町立 図書館	図 書	68	47	69	66	67	51	61	39	49	51	45	48	661
	雑 誌	2	5	1	0	8	3	3	0	0	0	4	4	30
	視聴覚	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大学・専門 図書館	図 書	55	48	60	98	32	16	36	50	33	35	21	9	493
	雑 誌	7	10	78	10	6	10	13	10	13	8	4	2	171
	視聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	図 書	515	498	563	603	541	445	544	457	398	476	490	440	5,970
	雑 誌	61	53	110	56	69	45	77	39	24	38	40	84	696
	視聴覚	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	5
総計		576	552	673	660	612	490	621	497	422	514	530	524	6,671

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

## (3) レファレンス

(単位：件)

年・月		3 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		229	307	269	286	318	246	283	268	270	179	244	265	3,164
(静岡県関係)		83	87	79	125	103	81	97	91	82	42	79	94	1,043
所蔵・所在調査		244	296	262	290	185	194	226	200	199	220	200	141	2,657
(静岡県関係)		58	43	67	60	59	54	43	54	42	83	60	36	659
合 計		473	603	531	576	503	440	509	468	469	399	444	406	5,821
(静岡県関係)		141	130	146	185	162	135	140	145	124	125	139	130	1,702

## (4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分	年・月												合計
	3 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 ・ 1	2	3	
16mmフィルム	10	5	6	6	6	6	2	0	6	0	0	0	47
ビデオテープ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
合 計	10	6	7	6	6	6	5	0	6	0	0	0	52

## (5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月													合計
	3 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 ・ 1	2	3	
入室者数	8	4	12	17	10	13	26	17	7	8	11	37	170
資料利用件数	9	9	6	10	11	16	32	30	4	6	6	18	157
資料掲載等許可件数	5	4	5	1	2	1	2	3	8	2	3	7	43
レファレンス件数	10	15	12	15	4	16	18	14	10	15	15	13	157

## (6) 電子図書館利用状況

(単位：件)

年・月													合計
	3 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 ・ 1	2	3	
閲覧数	/	/	/	/	/	/	1,139	873	897	640	891	409	4,849
試し読み	/	/	/	/	/	/	263	82	185	239	161	124	1,054
リクエスト件数	/	/	/	/	/	/	0	17	48	22	10	2	99

### 3 図書館資料充実状況

#### (1) 図書資料

(単位：冊)

分類	令和2年度末蔵書数	令和3年度中増減				令和3年度末蔵書数		
		受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)	
一般資料	0 総記	60,678	1,378	0	0	1,378	62,056	6.9
	1 哲学	32,955	318	1	0	317	33,272	3.7
	2 歴史	61,794	565	3	0	562	62,356	6.9
	3 社会科学	153,010	2,090	0	0	2,090	155,100	17.1
	4 自然科学	52,520	1,202	0	0	1,202	53,722	5.9
	5 技術	55,524	910	2	0	908	56,432	6.2
	6 産業	39,982	571	0	0	571	40,553	4.5
	7 芸術	42,301	694	2	△8	684	42,985	4.7
	8 言語	13,280	196	0	0	196	13,476	1.5
	9 文学	61,507	568	1	0	567	62,074	6.9
	小計	573,551	8,492	9	△8	8,475	582,026	64.3
児童資料	児童日本語(研究)	93,071	4,219	0	0	4,219	97,290	10.7
	児童日本語(貸出)	13,814	53	0	0	53	13,867	1.5
	児童外国語(研究)	1,017	29	0	0	29	1,046	0.1
	児童外国語(貸出)	35	0	0	0	0	35	0.0
	小計	107,937	4,301	0	0	4,301	112,238	12.4
K 旧分類資料	40,677	0	0	0	0	40,677	4.5	
S 地域資料	149,355	2,992	13	8	2,987	152,342	16.8	
G 外国語資料	11,914	142	0	0	142	12,056	1.3	
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.3
合計	889,700	15,927	22	0	15,905	905,605	100.0	

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	その他	合計
一般資料	7,639	818	0	23	12	0	8,492
児童資料	4,033	268	0	0	0	0	4,301
地域資料	1,039	1,496	287	0	1	169	2,992
外国語資料	79	63	0	0	0	0	142
合計	12,790	2,645	287	23	13	169	15,927

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※一般資料、児童資料には電子資料を含む

※地域資料のその他についてはp40を参照

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分	令和2年度末 所蔵数	令和3年度受入数						令和3年度末 所蔵数	
		購入	寄贈	分類換	払出	類換	合計		
視聴覚資料	4,129	46	42	81	0	0	169	4,298	
内 訳	ビデオテープ	1,819	0	0	0	0	0	1,819	
	DVD	1,957	43	42	81	0	0	166	2,123
	朗読CD	353	3	0	0	0	0	3	356
電子資料	1,590	27	14	101	0	0	142	1,732	
内 訳	一般	170	5	5	0	0	0	10	180
	児童資料	31	0	0	0	0	0	0	31
	新聞雑誌	524	22	0	12	0	0	34	558
	地域資料	554	0	9	89	0	0	98	652
	貴重書	311	0	0	0	0	0	0	311
小計	5,719	73	56	182	0	0	311	6,030	
マイクロフィルム	10,560	101	0	12	0	0	101	10,673	
内 訳	新聞雑誌	6,937	101	0	0	0	0	101	7,038
	貴重書・地 域資料等	3,623	0	0	12	0	0	0	3,635
合計	16,279	174	56	194	0	0	412	16,703	

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※マイクロフィルム（新聞雑誌）

令和2～3年度にマイクロフィルム原簿と現物を照合したところ、点数が異なっていたため、令和2年度末の所蔵数を正した。

※マイクロフィルム（地域資料） マイクロフィッシュ1点を含む。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区分	内訳	点数	除籍理由
一般資料	所在不明資料	9	所在不明であるため
地域資料	複本資料	12	複本であるため
	紛失資料	1	利用者紛失のため
合計		22	

(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌）

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和3年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9,804	53	9,857	566	23	589	1,295	20	1,315	1,861	43	1,904

※内訳はp33参照。

## (4) 電子書籍

(単位：点)

分類	令和3年度末 電子書籍数
0 総記	38
1 哲学	14
2 歴史	9
3 社会科学	241
4 自然科学	116
5 技術	114
6 産業	33
7 芸術	74
8 言語	99
9 文学	2
未分類	16
合計	756

## 4 図書班

### (1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課の全職員を0類、1・2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和3年度の一般資料受入冊数は8,492冊で、購入資料の平均単価は約4,035円（前年度は約4,183円）であった。受入冊数は前年度より2,194冊少なくなった。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、子どもコーナー「どんぐりひろば」配架用の本や貸出用大型絵本などの複本を46冊購入した。児童資料の受入冊数は4,301冊（日本語 4,272冊）で、購入資料の平均単価は、児童日本語は1,700円であった。

当館と友好提携を結んでいる浙江図書館からの交換資料については、新型コロナウイルスの影響で外注業者のマーク作成ができなかった令和2年度分を、今年度分とまとめて作成し、受入れを行った。

### (2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は169点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や欠巻補充をしたほか、防災関係や感染対策・ジェンダー情報に関する資料などを受け入れた。

### (3) 図書館利用状況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための閲覧席の利用制限等があったが、入館者数が前年度より増加した。また、貸出人数、貸出冊数共に増加した。

#### ア 入館者数

令和3年度の入館者数は、154,894人、前年度と比較して33,101人の増加となった。

#### イ 登録者数

令和3年度の新規登録者数は2,091人であった。前年度と比較して、354人増加した。

#### ウ 貸出状況

令和3年度の個人利用者への貸出点数は、p19の表のとおりである。

貸出状況は、前年度と比較して、人数では2,466人、点数では10,740点増加した。

### (4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

#### ア 予約・リクエストの状況

予約点数は20,135点（前年度16,847点）で、そのうちWeb予約は19,659点（前年度16,512点）と全体の9割以上を占めている。

令和3年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入	
			市町立	個人
図書・雑誌	19,994冊（19,527冊）	339冊	121冊	39冊
視 聴 覚	141点（132点）	0点	0点	0点
合計	20,135（19,659）冊／点	339冊	160冊／0点	

※予約の（ ）内は、Web予約の数

## イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、6,671冊（前年度6,388冊）と増加した。県外図書館への貸出は、227件346冊（前年度232件343冊）と前年並み、公共機関等貸出については1件24冊（前年度1件29冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、308件339冊（前年度264件292冊）と増加、うち国立国会図書館からの借受は7件7冊（前年度3件3冊）であった。

令和3年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国立国会図書館	—	7件／7冊
県外図書館	227件／346冊	85件／116冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 6,671冊・点 図書・雑誌 6,666冊 視聴覚資料 5点	216件／216冊
県内公共機関等	1件／24冊	—

## (5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を行っている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室、平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

令和2年度からはグランシップ「えほんのひろば」移転に伴う、本館子どもコーナー「どんぐりひろば」開室のため、子ども図書研究室に排架していた貸出用資料を子どもコーナーに移動した。そのため平成26年から行っていた子どもへの開放は中止し、令和2年10月からの毎週日曜12時30分から16時に職員が在室し、大人への開室を行った。

## ア 収集状況

児童書蔵書数 112,238冊（令和4年3月31日現在）

## イ 利用状況

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響による集合型の研修やイベントの中止に伴い、子ども図書研究室の見学者の減少傾向は続いた。また、密集を避けるために団体利用の人数を制限したことも利用者の減少に繋がった。

年度	開室日数	入室者総数	火・水・木・金・日 (担当者在室)	月・土 (不在)
令和2年度	291日	258人	222人	36人
令和3年度	308日	570人	541人	29人

## ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

## エ 子ども図書研究室講演会

子どもと本を結びつける活動をしている人を支援するため、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、

ボランティア等から一般県民(中学生を除く15歳以上)までを対象とした講演会を、年1回実施している。

令和3年度は、日本児童文学者協会会員で「トモエ文庫」主宰の草谷桂子氏を講師に迎え、「絵本の魅力」～ジェンダーの視点で楽しむ～」と題し、ジェンダーの視点からみた絵本の変遷について、多様な性を描く絵本を多数紹介しながらご講演いただいた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画配信の形で実施した。

実施期間	7月13日(火)～8月20日(金)
配信	静岡県立中央図書館公式YouTubeチャンネル
講師	草谷桂子氏(日本児童文学者協会会員、「トモエ文庫」主宰)
再生回数	1,010回

#### オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画(第三次計画)』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るための研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者からの資料相談に応じた。

例年は県内2会場で公共図書館向けと学校図書館向けに外部講師を招き開催しているが、前年度に引き続き令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部講師による講座を中止し、当館職員による新刊児童図書紹介のみとした短時間の同じ内容の研修を開催した。

期日	令和3年12月3日(金) 13:00～14:30	令和3年12月9日(木) 10:00～12:00、13:00～15:00
会場	静岡県総合教育センター	県立中央図書館
講師	資料課職員	資料課職員
参加人数	29人	50人(24人、26人)

#### カ 子ども図書研究室だより発行 No.99(R3.6)～No.101(R4.2)

配布先: 県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関(三ヶ日青年の家等)、図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

#### キ テーマ絵本貸出

平成23年7月より「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とした、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対するテーマ別絵本の貸出しを実施している。1セット20冊とし、各セットの絵本は重複しないよう配慮している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定したテーマ設定を行っており、具体的なテーマは「読み継がれてきた絵本」「食べもの」「お菓子」「日本の昔話」「世界の昔話」「グリム」「犬」「猫」「ねずみ」「くま」「虫」「夜」「月」「友だち」「兄弟姉妹」「誕生日」「山」「遊び」「おえかき」「音楽」「服」「字のない絵本」と現在22ある。

令和3年度の利用実績はなかった。

#### ク 視察・見学等

見学日	団体名	参加人数
令和3年12月8日(水)	静岡県子ども読書アドバイザー養成講座受講生見学	37人

#### ケ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始し、令和元年に本格実施した。

令和3年度は新型コロナウイルスの影響で2件延期、うち1件は延期後に中止、Zoomによるオンライン開催で2回実施した。

令和3年度実績 5団体 110人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	めりーぼびんず (焼津市立黒石小学校 図書館ボランティア)	7月13日(火)	15	読み聞かせ入門
2	浜松学院中学校高等学校 ※Zoomによるオンライン開催	9月17日(金)	34	読み聞かせ入門
3	長泉町民図書館	11月4日(木)	14	小学校低学年から中学年への読書案内
4	静岡市立清水江尻小学校 図書館ボランティア	12月15日(水)	29	昔話絵本の比較
5	御前崎市立図書館 ※中止	1月27日(木)		読み聞かせ入門
6	袋井市立図書館読み聞かせボランティア (赤いローソク、浅羽図書館読み聞かせボランティア、ふくちゃんの会) ※Zoomによるオンライン開催	2月25日(金)	18	読み聞かせ入門

## コ 新刊サロン

子どもの読書活動関係者に情報交換や交流の場を提供するため、職員が新刊児童図書の紹介を行い、参加者が自由に語り合う会を平成24年度から、偶数月第3水曜日(12月のみ土曜日)の午前中に開催している。

令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合形式での開催を中止し、当館YouTubeチャンネルで動画配信した。動画は「知識の本」「読み物」「絵本」の3本に分け、子ども図書研究室紹介動画を組み込んで作成した。当館までの距離や時間の都合で参加できなかった方も参加できる、繰り返し見られる等の点で好評を得た。

回次	1	2	3	4	5	合計
配信期間	6/30~8/17	9/1~10/19	10/29~12/17	12/27~2/15	2/25~4/22	
再生回数	851回	657回	704回	371回	401回	2,984回

※第5回新刊サロンの再生回数は令和4年3月末現在

## サ 団体利用

「子ども図書研究室」を、全点収集資料を利用した選書会等の会場として、県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体に、予約制で提供している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため団体利用の受付を中止し、令和3年度は人数を制限して受け付けた。

利用団体数	3団体
利用人数	14人

## シ 選定図書リストの公開

平成29年度から、子ども図書研究室の全点収集児童書のうち、子どもと本をつなぐ活動をしている方々の選書の参考になるよう、職員が選定した図書リストをウェブサイトで公開している。

令和3年度は16回318冊を選定図書として公開した。

## ス 展示一覧

子ども図書研究室内に2つのスペースを設け、展示を行っている。季節の展示コーナーでは、県内市町立図書館及び学校図書館の展示に参考になるよう、少し先の季節の本を展示している。テーマ展示コーナーでは、子ども図書研究室講演会や静岡県図書館大会関連資料、課題図書等の他、その年に周年を迎える作家や作品に関連する展示を実施している。その他、著名な絵本作家が亡くなられた際には、随時、追悼

展示を行っている。

	季節の展示	テーマ展示	その他
4月	海の絵本	岩波少年文庫創刊70年	
5月			エリック・カールさん追悼展示
6月	戦争の本	ジェンダーの視点でみる絵本 (講演会関連資料)	
7月		夏の課題図書等	那須正幹さん追悼展示
8月	きのこと木の実の本	「おさるのジョージ」出版80年	
9月			
10月	新しいクリスマスとお正月の絵本	鈴木まもるさんの本 (静岡県図書館大会関連資料)	
11月			
12月	鬼と豆の絵本	第33回読書感想画中央コンクール	
1月	卒園・卒業と入園・入学の絵本	令和3年度子ども図書研究室選定資料	松岡享子さん追悼展示
2月			
3月	カエルの絵本	「ニッサン童話と絵本のグランプリ」とこどもの本に関する賞	

## セ その他

- ・静岡県私立幼稚園初任者研修 講師 (オンデマンド開催)
- ・静岡県公立幼稚園等初任者研修 講師 (ライブ開催)
- ・静岡県子ども読書アドバイザー養成講座 講師
- ・静岡県立短期大学部こども学科 講義「教育実習指導」 講師
- ・静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会出席

## (6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」

子どもコーナー「どんぐりひろば」は、本館2階に位置し、一般児童書約3,000冊(読み物約2,000冊、知識の本約1,000冊)絵本約6,000冊を配架している。令和2年9月から令和3年3月までのグランシップの工事休館に伴い、グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」を移転し、令和2年10月1日から県立中央図書館子どもコーナー「どんぐりひろば」として開室した。児童に対する直接サービス以外にも県立中央図書館移転までの新館における児童サービスの事前準備・調査・研究を行う。

おはなしかいは前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて実施し、5月18日から6月24日、8月3日から9月28日、2月1日から3月20日は中止とした。場所は「どんぐりひろば」横の講堂とし、感染予防対策のうえ実施した。

11月27日にグランシップで行われた企画事業「冬のおくりもの」では、「帰ってきた!えほんのひろば」として、どんぐりひろば所蔵のクリスマスや冬の絵本の出張展示及びボランティアによるおはなしかいを実施した。

## ア 利用状況

年度	開室 日数	入室者 総数	新規 登録者数	貸出 人数	貸出数			
					図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚 (点)	合計
令和2年度	147	3,908	93	957	8,366	58	1	8,425
令和3年度	308	8,842	210	2,357	18,763	162	4	18,929

※「どんぐりひろば」の利用状況は本館利用状況に含まれる

※令和2年度は移転後の10月から3月までの利用状況。

## イ おはなしかい活動実績（令和3年4月～令和4年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10:30～	24	117人	4.9人	職員が実施
毎週木曜日10:30～	19	94人	4.9人	3つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15:30～	23	54人	2.3人	職員が実施
第3日曜日10:30～	5	25人	5.0人	1つのボランティアグループが実施
その他 (7/10、10/31、 11/27、12/25)	4	173人	43.0人	<おはなしかいスペシャル> 2つのボランティアグループが不定期で 実施（1グループは絵本の読み聞かせの 他、歌や芝居なども含む）。10/31はイベ ント「文化の丘マルシェ」、11/27はイベ ント「冬のおくりもの」にあわせて実施 した。

## ウ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの本	はるのえほん
5月	虫の本	おかあさんのえほん
6月	ジェンダーに関する本/ エリック・カールさん追悼展示	おとうさんのえほん
	水辺の生きものの本	あめのえほん
7月	スポーツの本	たなばたのえほん
		なつのえほん
8月	那須正幹さん追悼展示	おつきさまのえほん
9月	おじいさん・おばあさんの本	
10月	「おさるのジョージ」出版80年	はるのえほん
	ハロウィンの本	よるのえほん
11月	世界の昔話	あきのえほん

12月	クリスマスの本	クリスマスのおぼん
	寅と十二支の本	おしょうがつのおぼん
1月	鬼と豆の本	ふゆのおぼん
2月	言葉遊びと詩の本	はるのおぼん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和3年度の視聴覚資料の受入数はなかった。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	令和2年度末 所蔵数	令和3年度受入数			令和3年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計	
16ミリフィルム	1,466	0	0	0	1,466
ビデオテープ	3,333	0	0	0	3,333
D V D	72	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	295
合計	5,166	0	0	0	5,166

※その他 (スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等)

イ 貸出数

	社会教育関係	学校教育関係	合計
16ミリフィルム	37 点	10 点	47 点
ビデオテープ	2 点	0 点	2 点
D V D	0 点	0 点	0 点
その他	3 点	0 点	3 点
合計	42 点	10 点	52 点

(8) 展示他

特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事、時事等にあわせて展示をした。

展示期間	テーマ
令和3年3月1日～4月18日	図書館記念日
4月6日～4月29日	追悼 橋田壽賀子さん
4月20日～4月30日	新生活に役立つ本
5月1日～5月31日	お家で今すぐできるリフレッシュ
6月1日～6月29日	県民文芸祭
7月10日～8月1日	『国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展—天地創造の神話』(県立美術館関連展示)
8月2日～8月31日	『オリンピック・パラリンピック』
9月1日～9月29日	『渋沢栄一と関連社史』

10月5日～10月28日	聞き書き甲子園関連展示
11月1日～11月30日	「ドストエフスキー」生誕100周年記念
11月12日～11月29日	追悼 瀬戸内寂聴さん
12月1日～12月27日	12月14日は討ち入りの日（忠臣蔵）
令和4年1月5日～1月16日	干支と正月の風景
2月1日～2月27日	山梨県との交換展示
3月1日～3月30日	大人の学びなおしーリカレント教育ー
3月5日～3月19日	追悼 稲畑汀子さん

## 5 新聞雑誌班

### (1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,857タイトルで、内1,904タイトル（購入589、寄贈1,315）を継続して収集し、保存している。そのうち、新聞は53タイトル（内43タイトル継続）である。改題誌をタイトル数に加えているものもあり、所蔵総タイトル数は増加している。

寄贈雑誌は15タイトルを新規に受け入れた。地域雑誌は、静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルを積極的に受け入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞静岡版と県内版替分、中日新聞東海本社版と地方版、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の各静岡版を継続受入した。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和3年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,474	32	2,506	72	17	89	272	12	284	344	29	373
1 哲学	154	0	154	13	0	13	26	0	26	39	0	39
2 歴史	591	2	593	27	0	27	120	2	122	147	2	149
3 社会科学	2,563	11	2,574	153	2	155	354	4	358	507	6	513
4 自然科学	566	0	566	59	0	59	112	0	112	171	0	171
5 技術	1,094	4	1,098	111	1	112	118	2	120	229	3	232
6 産業	1,043	3	1,046	28	3	31	91	0	91	119	3	122
7 芸術	403	1	404	52	0	52	78	0	78	130	0	130
8 語学	76	0	76	8	0	8	8	0	8	16	0	16
9 文学	840	0	840	43	0	43	116	0	116	159	0	159
計	9,804	53	9,857	566	23	589	1,295	20	1,315	1,861	43	1,904

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

### (2) 提供情報の充実

#### ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしており、それにより利用者端末や当館ウェブサイトからキーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できる。

#### イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的に関覧室の雑誌コーナー及び総合案内カウンター前で行っている。

雑誌コーナーでは、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。

展示テーマは次のとおりであり、利用者の興味関心が高まるような展示に努めている。

	雑誌コーナー	総合案内カウンター前
3・4月	浮世絵の世界	雑誌『Highlighting Japan』
5・6月	ドイツ	雑誌『渋沢研究』
7・8月	涼をとる	雑誌『江戸川柳』
9・10月	映画	雑誌『イエタテ』
11・12月	クリスマス	静岡県内のスポーツ関係雑誌
1・2月	季節の行事	静岡の郷土史研究雑誌
3・4月	文学者 生・没 ○周年	雑誌『仏教芸術 Buddhist Arts』

#### ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進し、利便性を高めるために、現在は22タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている（総タイトル数46）。目次を入力した地域雑誌は、それぞれの巻号の目次一覧を見ることもでき、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されている。最新情報が得られるので、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努める。

#### エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からWeb公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータを基に、県内各市町立図書館（室）が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和3年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修をYouTubeによるWeb配信で行った。

当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているため、検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるため、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待している。

#### (3) その他

特別整理休館時に、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業を行い、資料の適切な保管に努めている。

## 6 一般調査班

### (1) レファレンスサービス

#### ア 令和3年度レファレンスサービスの概要

令和3年度のレファレンス総件数は5,821件で、令和2年度と比較して減少しているが、平成30年度末の閲覧室再開からの増加傾向は続いている。

令和2年度から引き続き、質問形式ではメールや電話が、調査時間では30分以上の質問の割合が増加している。これは新型コロナウイルス感染症が未だ収束せず、外出・移動制限の状態が続くことにより、来館しての調査が困難となるとともに、調査内容がより詳細化したことが要因であると考えられる。

調査種別では、所蔵・所在調査が54.4%、書誌・文献・事実調査は45.6%となった。書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の33%であり、分類別では、多い順に2類（歴史・人物・地理）、0類（叢書・新聞）、7類（芸術・スポーツ）、3類（社会科学）となり、これらで全体の76.4%を占めた。

また、市町立図書館からの問合せは昨年度の1.5倍以上になった。理由としては、ステイホームや移動制限のため最寄りの市町立図書館で調べ物をする利用者が増えていることや、レファレンス研修を動画配信にしたことにより、多くの市町立図書館の職員研修の支援につなげることができたためと考えられる。

今後も引き続き個々の利用者のみならず、市町立図書館に対する支援も含め、県内全体のレファレンス・サービスの向上に努め、利用者に満足していただけるよう担当職員のレファレンススキルの向上を目指す。

令和3年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	3,164	うち静岡県に関するもの	1,043
②所蔵・所在調査件数	2,657	うち静岡県に関するもの	659
合計	5,821	うち静岡県に関するもの	1,702

#### イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分でも調べられる、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題した「テーマ別調べ案内」を作成している。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるよう閲覧室内に配置しているほか、当館ウェブサイトでも「パスファインダー一覧」としてPDFで公開している。令和3年度は一部内容を見直し、改訂した。

#### ウ オンラインデータベースの充実

##### (ア) 導入オンラインデータベース

ジャパンナレッジLib、第一法規法情報総合データベース、TKCローライブラリー、聞蔵Ⅱビジュアル、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、毎索、中日新聞・東京新聞記事データベース、日経BP記事検索サービス、医中誌Web、ヨミドクター、ルーラル電子図書館、官報情報検索サービス、地方公共団体総覧、近代新聞検索の15種類のデータベースを導入している。また、オンラインデータベース利用促進のため、関連資料の書架等にデータベース一覧の紹介を掲示した。

##### (イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	3/4	5	6	7	8	9	10	11	12	4/1	2	3	計
ログイン数	213	148	178	137	138	122	162	168	154	141	150	190	1,901
検索件数	4,368	10,095	11,587	7,716	6,151	6,636	10,232	8,467	14,037	4,952	2,963	10,964	98,168

※ログイン数は、第一法規法情報総合データベース、聞蔵Ⅱ、毎索、医中誌、ジャパンナレッジ、TKCローライブラリーのもの。

※検索件数は、静岡新聞・日経テレコン、ヨミダス歴史館、中日・東京新聞、ルーラル、日経BP、ヨミドクターのもの。

#### (ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

令和3年度は静岡新聞社デジタルビジネス局から講師の方を招き、「静岡新聞データベースplus日経テレコン」活用方法の講座を予定していたが、新型コロナウイルスまん延のため中止となった。

実施日	講座名	受講者数
2月23日（水）	「静岡新聞データベースplus日経テレコン」の活用方法	中止

## (2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

### ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）及び、専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。本年度は、基礎研修全4回のうち1回は集合形式で行ったが、残り3回と応用研修の全てを動画配信で行った。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「初級レファレンス 基礎と演習」と題し、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義とレファレンス演習を行った。応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修であり、「統計情報の探し方」と「法情報の探し方」の2つを行った。

基礎研修で当館を会場に行った集合形式の受講者数は21人、動画配信の視聴状況は、8講座の視聴回数の合計が397回であった。応用研修の視聴状況は、2講座の視聴回数の合計が71回であった。

### イ 教職員対象の研修の実施

静岡県総合教育センター主催で行われた「学校図書館活用研修」に一般調査班員が講師として赴き「教育活動・学校図書館と著作権」を担当した。本研修は、学校図書館に携わる小・中学校教員や学校図書館の活用に関心のある教員を対象としており、担当した講義では著作権法の基本的な事項や学校教育における著作権法の取扱い、授業目的公衆送信補償金制度などについて説明をした。

当館主催「教育活動中の著作権と情報リテラシー研修」は、当初、集合形式で静岡県総合教育センターを会場に「インターネットで資料を調べる」「学校における教育活動と著作権」の2つを行う予定であったが、Web会議システムによるオンライン（ライブ）配信に変更し、内容も「学校における教育活動と著作権」のみとした。この研修は公立の小・中・高・特支教職員及び市町教育委員会の指導主事を対象としている。

実施日	内容等	受講者数
7月7日（水）	学校図書館活用研修 会場：静岡県総合教育センター	60人
8月18日（水）	教育活動中の著作権と情報リテラシー研修 オンライン（ライブ）配信	28人

### ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成28年度以降、県内各地区図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し、基礎的な内容の講義ならびに演習を行う「出前講座」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論（インタビュー演習等を含む）」「参考図書で調べる」「資料をインターネ

ットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和3年度は、6会場で研修予定であったが、1館がオンライン開催、1館が中止となった。総受講者数は75人だった。

#### 出前研修実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
11月25日(木)	裾野市立鈴木図書館	12人	1月11日(火)	御殿場市立図書館	17人
11月30日(火)	清水町立図書館	7人	1月28日(金)	富士市立中央図書館	中止
12月22日(水)	島田市立島田図書館	16人	2月25日(金)	三島市立図書館	(動画配信) 23人

### (3) 特別取扱資料等の保存と公開

#### ア 特別取扱資料

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、令和3年度は3月7日の図書館休館日に、ブンガノンとライセントを使用して収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、職員の目視により平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めてきたが、デジタル化されている葵文庫・久能文庫資料について、令和2年度に専門業者による資料の破損や汚損状況の調査を行い、この調査結果をもとに、破損・汚損状況の激しい資料から順次、修復・整備し、引き続き貴重な資料の保存と公開の両立を図っていくこととした。

今年度は葵文庫の英書『An English spelling-book』を含む27タイトル40冊の修復を行った。

#### イ 貴重書の閲覧・利用状況

令和3年度は、延べ29人が計744点を閲覧した。状態の悪い資料については引き続き利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っていく。

#### ウ 貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進め、デジタルライブラリーでの画像公開を行っている。

令和3年度は、久能文庫『関口家資料』を含む4タイトル354点をマイクロフィルム化・デジタル化した。

#### エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和3年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が62件あり、前年度の93件より30件程度減少した。その内訳は掲載46件（前年度72件）、放映16件（同21件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は46件（前年度は55件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』など）、の申込みが例年どおり多かったが、その他では駿府城関係資料（『駿府御城図』など）の申込みが多かった。

なお、展示等による館外貸出については4件（79点）を許可した。

施設	催事名等	資料名
静岡県富士山世界遺産センター	『富士山表口の歴史と信仰-浅間大社と興法寺』展	浅間大宮司富士家文書 1 後醍醐天皇 論旨 他 全7点
静岡市文化財団	静岡市歴史文化施設プレ企画展	万留帳 他 全18点

静岡市東海道広重美術館	『忠臣蔵』展	上村翁旧蔵浮世絵集4 他 (「忠臣蔵」浮世絵 全53点)
伊那市創造館	第27回企画展「高遠藩の軍制改革と伊澤修二」	教授真法

## オ 貴重書常設展示

平成23年1月に閲覧室内に開設した貴重書常設展示コーナー『しずおか』の貴重書を、令和3年度も継続して実施した。ブラウジング入口付近の横型ケースを使用し、毎回3～5点の資料を展示した。所蔵する貴重資料を毎月入れ替え、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルの作成を心掛けた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書を展示・配架した。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
令和3年 4月2日 ～ 4月29日	華満開	浮世絵『千代田の大奥』他
5月1日 ～ 5月30日	新茶の季節	『製茶新説』『茶務僉載』他
6月1日 ～ 6月29日	明治の教科書	『輿地誌略』『小学化学書』他
7月1日 ～ 8月29日	辞書・辞典	『新ポケット英蘭辞典』『英蘭対訳字書』他
9月1日 ～ 9月29日	天保三年伊豆紀行	『天保三年伊豆紀行』他
10月1日 ～ 10月28日	よみがえれ！貴重書	『A pictorial handbook of modern geography』『分國城圖』他
10月30日 ～ 11月28日	紅葉を愛でる	浮世絵『新皇居紅葉之園』他
12月1日 ～ 12月27日	忠臣蔵	『浅野内匠頭様御泊御宿割帳』他
令和4年 1月5日 ～ 2月27日	葵文庫の洋学資料	『博物通論』『三兵答古知幾』他
3月1日 ～ 4月27日	花を愛でる	浮世絵『十二ひと絵衣更着の梅見』『本草図譜』他

## カ 貴重書講座・見学

### (7) 貴重書講座

演題 「葵文庫（江戸幕府旧蔵書）の洋学資料 ～近代化をめざした江戸幕府～」

講師 海老原 一彦 氏（葵文庫の会<sup>(※)</sup> 会長）

当館には、蕃書調所、洋書調所、開成所、昌平坂学問所などの江戸幕府の公的機関の旧蔵書が、特殊コレクション「葵文庫」として収蔵されている。今回の講座では葵文庫の2/3をしめる洋学資料について、その概要と約10点を選んでわかりやすく解説をしていただいた。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、イベント形式での開催を中止し、当館のYouTubeチャンネルで動画を一般公開した。動画配信期間は令和4年3月25日（金曜日）午前10時から5月9日（月曜日）午後5時までとした。

(※)「葵文庫の会」：葵文庫について調査、研究している会。元県立中央図書館職員で構成している。

### (4) 貴重書紹介講座（図書館見学）

随時実施する図書館見学は、特に大学生の授業の一環として葵文庫・久能文庫等の解説、『論語』（葵文

庫)などの展示を行い、資料を間近で見ることによって将来を担う学生・生徒に見聞を広めてもらうことを目的としている。

令和元年度は全国の中世史研究者による中世史サマーセミナーの一環として、当館の見学が組み込まれるなど、研究者や学生の研究に役立てることができたが、令和2、3年度はコロナ禍のため、予定した大学生の見学等は全て中止となった。

#### (4) その他の関連事業

##### ア 点訳音訳奉仕員養成講習会

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する点訳音訳奉仕員養成講座のプログラムの1つとして「調査・レファレンス講習会」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は県内各地で音訳・点訳ボランティアとして活躍する方々で、それぞれ真剣に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月16日(火)	静岡県立中央図書館	10人

##### イ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を年1回行っているが、令和3年度はコロナのため中止となった。

##### ウ 郵送複写サービス

当館では、来館が難しい県民に対し所蔵資料の郵送複写サービスを行っており、県外の利用者からの申込は、当館のみが所蔵する資料及び静岡県に関する資料(地域資料)に限り受け付けている。令和3年度は、年間の依頼申込は174件2,728枚(内マイクロフィルムは18件158枚)であった。コロナ前の令和元年度と比較すると、申込件数は4月と7月から1月まで感染者数の増減に係わらず多く、特に9月は送付枚数・枚数とも4倍以上になった。

## 7 地域調査班

### (1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和3年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問い合わせや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	令和2年度末 蔵書数	令和3年度受入冊数（増減数）							令和3年度末 蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍 数	計	蔵書数	比率 (%)
0 総記	12,995	209	136	21	170	8	2	542	13,537	8.9
1 哲学	1,689	27	30	0	0	0	0	57	1,746	1.1
2 歴史	29,101	289	234	4	0	0	0	527	29,628	19.4
3 社会科学	49,136	149	580	139	0	0	4	864	50,000	32.8
4 自然科学	7,122	17	115	10	0	△3	0	139	7,261	4.8
5 技術	10,673	54	98	38	0	3	0	193	10,866	7.1
6 産業	15,412	23	83	62	0	0	0	168	15,580	10.2
7 芸術	8,361	81	135	11	0	0	7	220	8,581	5.6
8 言語	500	2	12	0	0	0	0	14	514	0.3
9 文学	14,366	188	73	2	0	0	0	263	14,629	9.6
合計	149,355	1,039	1,496	287	170	8	13	2,987	152,342	100.0

※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがある。

※令和3年度受入冊数のうち「その他」169点は、これまで1点として蔵書システムに登録してきた『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書』1,555点のうち、デジタル化に伴い個別に登録を行ったものを計上した。

### (2) 提供情報の充実

#### ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約30%が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及入力も継続的に行っている。

#### イ 二次資料の作成

前回発行の『静岡県立中央図書館所蔵静岡県内住宅地図目録 2018年3月31日現在』に、その後の増加分を追加したほか、フォントや活字の大きさ、レイアウトなどを見直して、より見やすく、分かりやすくなるように改訂を行い、『静岡県立中央図書館所蔵静岡県内住宅地図目録 2022年3月31日現在』を発行した。

### (3) 資料展示

#### ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重書常設展示」の項目を参照してほしい。

#### イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい！ふじのくに」では、平成31年3月の閲覧室補修工事完了後の再開館から特集展示を開始した。時事に合わせたテーマと共に、書架の位置等で目に付きにくい分野をテーマに設定するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和3年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
令和3年 3月16日 ～ 5月16日	花を楽しむ（令和2年度からの継続）
5月18日 ～ 6月29日	静岡県の自動車産業
7月1日 ～ 8月29日	静岡県とオリンピック・パラリンピック
7月31日 ～ 8月29日	地域の歴史を発掘しよう
9月1日 ～ 9月29日	静岡県立中央図書館の創立に尽力した洪沢栄一
10月1日 ～ 11月14日	歴史の宝庫「静岡県」
11月16日 ～ 12月27日	静岡県障害者芸術祭
令和4年 1月5日 ～ 2月27日	伊豆国出身の鎌倉幕府二代目執権 北条義時
3月1日 ～ 4月29日	ふじのくにの絵本作家（令和4年度4月まで継続）

### (4) 市町立図書館への支援

#### ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館ウェブサイト公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

#### イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受入れを行っている。

### (5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組事業として積極的に推進している。毎年、近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化・マイクロフィルム化を行い、当館デジタルライブラリーで一般公開を行うほか、虫食いや劣化破損等の見られる資料の修繕を行っている。令和3年度は貴重書の劣化度調査を行った。この結果をもとに今後の保存計画を策定する予定である。

平成27年度から、県及び市町発行の行政刊行物等のPDFファイルも収集・公開を行っている。令和3年度には、これらPDFファイルの収集を自動的・網羅的に行うクローラの開発も行った。

令和3年度に行った事業は次のとおりである。

事業	内訳	点数	内 訳
デジタル ライブラリー 登録・公開	自館作成分	18タイトル	地域資料：『静岡県立葵文庫一覧』『静岡県統計書』 他
	業務委託分	205タイトル	貴重資料：『遠江城砦誌』『宮田日記』他
	行政資料	131点	静岡県及び市町発行の行政資料を公開
デジタル化 マイクロフィルム化		500タイトル	貴重資料：『大井家日記18』『大井家日記47』他
修繕		8タイトル	貴重資料：『大井家日記19』『大井家日記37』他

(6) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター (p61参照)

## 8 企画班

### (1) 図書館職員研修

#### ア 基礎研修

##### (7) 図書館基礎研修

期日・会場	4月16日(金)・静岡県立中央図書館 会議室、オンライン(ライブ配信)併用
参加人数	123人(会場参加31人、オンライン参加92人)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館職員の基礎知識」 認定司書 静岡文化芸術大学図書館・情報センター 堀内 古季 氏</li> <li>・「コミュニケーション」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員</li> <li>・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員</li> </ul>

##### (イ) おうだんくん基礎研修

期 日	配信期間 6月11日(金)～3月4日(金)
会 場	YouTubeによるオンデマンド開催
参加人数	総再生回数 330回
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おうだんくんシステム、ポータル」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員</li> <li>・「おうだんくんコミュ」 同企画振興課企画班職員</li> <li>・「静岡県の図書館」 同企画振興課振興班職員</li> <li>・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同資料課新聞雑誌班職員</li> <li>・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同調査課地域調査班職員</li> <li>・「おうだんくんサーチ」 同企画振興課企画班職員</li> <li>・「相互貸借の基本」 同企画振興課振興班職員</li> <li>・「おうだんくん ILL」 同資料課図書班職員</li> </ul>

##### (ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月14日(金)	配信期間 5月20日(木)～10月13日(水)
会 場	静岡県立中央図書館 会議室	YouTubeによるオンデマンド開催
参加人数	21人	総再生回数 397回
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レファレンス概論」</li> <li>・「基礎的な参考図書の紹介」</li> <li>・問題演習、解説</li> <li>・「インターネットで資料を調べる」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レファレンス概論」</li> <li>・「参考図書の使い方」</li> <li>・「参考図書の使い方」事後課題</li> <li>・「インターネットで資料を調べる」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員</li> </ul>

#### イ 専門研修

##### (7) 大学・専門図書館研修

期日・会場	6月17日(木)・オンライン(ライブ配信)開催
参加人数	23人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例報告 静岡県男女共同参画センター図書室 菊川 真紀子 氏</li> <li>・「図書館におけるリスクマネジメントー大学図書館を中心にー」 関東学院大学社会学部現代社会学科教授 千 錫烈 氏</li> </ul>

(イ) レファレンス応用研修

期 日	配信期間 10月29日(金)～2月28日(月)
会 場	YouTubeによるオンデマンド開催
参加人数	総再生回数 71回
内 容	・「法情報の探し方」 ・「統計情報の探し方」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員

(ウ) 資料保存研修

期日・会場	11月25日(木)・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	50人
内 容	・「図書の軽微な傷みの修理」 高岡 容子 氏

(エ) 図書館広報研修

期日・会場	12月1日(水)・島田市立金谷公民館 集会室3
参加人数	24人
内 容	・「図書館における効果的な広報の発想」 島田市立金谷公民館長 孕石 晃 氏

(オ) 図書館サービス研修

期日・会場	12月17日(金)・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	48人
内 容	・「図書館サービスと著作権」 ・「令和3年度著作権法改正(図書館関係)」 元日本図書館協会著作権委員会委員 南 亮一 氏

(カ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	1月14日(金)・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	19人
内 容	・「ブックトークの理論と技術」 三芳町立図書館長 代田 知子 氏

ウ 運営研修

(ア) 館長研修会

期日・会場	4月20日(火)・オンライン(ライブ配信)開催
参加人数	41人
内 容	・「公立図書館等の現状と課題」 筑波大学准教授 池内 淳 氏

(イ) 図書館運営研修

期日・会場	7月2日(金)・静岡県立中央図書館 中集会室
参加人数	32人
内 容	・「図書館員はどうすれば育つのかー非正規職員から館長までー」 フルライトスペース株式会社特別研究員 豊田 高広 氏

## エ 特別研修

### (7) 図書館情報交換会

期 日	9月24日(金)	10月28日(木)	11月17日(水)	12月1日(水)
会 場	富士宮市立 芝川図書館	浜松市立 都田図書館	Zoomによる Web会議形式開催	島田市立 金谷図書館
参加人数	新型コロナウイルス感染症対策として中止		18人	14人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館見学(12月1日)</li> <li>・分科会(グループワークによる情報交換会)</li> </ul>			

## (2) 利用者からの意見

### ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	0	1	3	0	2	5	5	1	0	0	2	2	21
回答・改善 件数	0	1	3	0	0	2	4	1	0	0	1	1	13

提案件数は、昨年度から1件増加した。提案の内容は、主に利用規定や利用者マナーに関するもの等で、苦情申立ての手段として利用されることが多い。早期回答を心がけ、なるべく改善に繋げるよう努めた。

### イ 利用者実態調査

#### (7) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。

令和3年度は、これまで来館者に対して紙で行っていたアンケートを廃止し、ふじのくに電子申請サービスを利用し、電子申請でアンケートを行った。集計作業の効率化や、市外利用者(市町受取サービス利用者等)、当館を利用したことがない人等から多く意見を集めることなど、電子申請のメリットを生かしたアンケートを実施することができた。

#### (4) 調査期間

11月1日(月)～11月30日(火) 30日間

#### (7) 分析結果

【付属資料】「令和3年度『静岡県立中央図書館アンケート』集計結果」(p52-53)

## (3) イベント等

### ア 図書館講座・講演会

#### (7) 図書館講座 葵レク(集合開催)

実施日	内容	講師	募集	応募	参加
7月11日(日)	ロボットプログラミング教室	株式会社タミヤ 職員	36人	209人	36人
11月27日(土)				43人	36人
11月28日(日)				25人	28人

## (イ) 図書館講座 葵レク (オンデマンド開催)

配信期間	内容	講師	再生回数	備考
6月30日(水) ～ 8月17日(火)	第1回新刊サロン	当館職員	851回	再配信期間 10月19日(火) ～ 11月17日(水)
9月1日(水) ～ 10月19日(火)	第2回新刊サロン	当館職員	657回	
10月29日(金) ～ 12月17日(金)	第3回新刊サロン	当館職員	704回	
12月27日(月) ～ 2月15日(火)	第4回新刊サロン	当館職員	371回	
2月25日(金) ～ 4月22日(金)	第5回新刊サロン	当館職員	401回	再生回数 令和4年3月末 時点
3月25日(金) ～ 5月9日(月)	貴重書講座「葵文庫(江戸幕府旧蔵書)の洋学資料～近代化をめざした江戸幕府～」	葵文庫の会 会長 海老原 一彦氏	268回	再生回数 令和4年3月末 現在

## (ウ) 図書館講座 葵レク (ライブ配信)

実施日	内容	講師	参加人数	備考
3月5日(土)	健康医療情報講演会「ひとりで悩まないで-AYA世代でがんを体験したわたし達からのメッセージ-」	NPO 法人オレンジ ティ 中野 季里子氏 小磯 朋子氏	36人	

## (イ) 子ども図書研究室講演会 (オンデマンド開催)

配信期間	内容	講師	再生回数	備考
7月13日(火) ～ 8月20日(金)	「絵本の魅力」～ジェンダーの視点で楽しむ～	トモエ文庫主宰 草谷 桂子氏	1,010 回	

## イ 展示

期間	展示会名称	連携機関等	開催場所
3月2日(火) ～ 4月29日(木)	青年海外協力隊写真展	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中部センター	展示室
3月2日(火) ～ 4月29日(木)	図書館アイデアコンペ受賞作展示	県社会教育課	インフォメーションホール
3月2日(火) ～ 4月29日(木)	さくら写真展	県環境ふれあい課	閲覧室
6月1日(火) ～ 6月29日(火)	県民文芸：その記憶をたどる	県文化政策課	インフォメーションホール カウンター前
6月1日(火) ～ 6月29日(火)	未来を切り拓くDream授業：中学生の考えるミライとは	県総合教育課	展示室
7月20日(火) ～ 8月29日(日)	草薙神社龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室

7月20日(火) ～ 8月29日(日)	ユニバーサルデザイン絵本コンクール作品展	静岡文化芸術大学	Sカウンター前
7月20日(火) ～ 8月15日(日)	統計グラフコンクール作品展	県データ活用推進課	インフォメーションホール
7月31日(土) ～ 8月29日(日)	あいのうた～出会いから子育てまでの短歌コンテスト～展示	県こども未来課	閲覧室
8月17日(火) ～ 9月29日(水)	北条義時がうまれた里『伊豆の国』の中世	伊豆の国市文化財課	インフォメーションホール
9月1日(水) ～ 9月29日(水)	海洋プラスチックごみ防止6R県民運動展	県廃棄物リサイクル課	展示室
9月7日(火) ～ 10月3日(日)	没後30年 井上靖	長泉町井上靖文学館	Sカウンター前
10月19日(火) ～ 11月28日(日)	歴史的公文書でたどる静岡県の地域災害：伊豆半島沖地震と伊豆大島近海地震	県法務文書課	インフォメーションホール
10月19日(火) ～ 11月28日(日)	今昔図書館資料	館内企画	展示室
11月16日(火) ～ 12月5日(日)	犯罪被害者週間展示	県くらし交通安全課	インフォメーションホール
12月21日(火) ～ 12月27日(月)	生命のメッセージ展	県くらし交通安全課	インフォメーションホール
2月1日(火) ～ 2月27日(日)	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示	山梨県立図書館	Sカウンター前
3月8日(火) ～ 4月27日(水)	青年海外協力隊写真展	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中部センター	展示室
3月8日(火) ～ 4月27日(水)	さくら写真展	県環境ふれあい課	閲覧室

## ウ 図書館特別企画

### (7) 夏休み子ども図書ウィーク

日時 (当初予定)	内容	講師等	備考
8月1日(日)	ユニバーサルデザイン絵本手作り教室	林左和子氏 (静岡文化芸術大学)	展示のみ 7/20(火)～8/29(日)
8月3日(火)	プログラミング教室	当館職員 島田商業高校生徒	中止
8月4日(水)	折り紙あそび	読み聞かせネットワーク	参加者10人 開催場所 中集会室
8月5日(木)	親子グラフ教室	県データ活用推進課職員	展示のみ 7/20(火)～8/15(日)
8月6日(金) 8月7日(土)	親子ドローン教室	(株)富士空撮サービス	見送り

#### (イ) ふじのくに文化の丘フェスタ

##### a 特別企画 文化の丘マルシェ

- ・日時 令和3年10月31日(日) 10時から16時
- ・場所 静岡県立中央図書館屋外
- ・内容 一般社団法人草薙カルテッドと協働し、地域店舗を招いたマルシェを開催した。
- ・協賛 一般社団法人草薙カルテッド

##### b 企画展示

###### (a) 歴史的公文書でたどる静岡県の地域災害：伊豆半島沖地震と伊豆大島近海地震

- ・日時 令和3年10月19日(火) から11月28日(日) 開館時間中
- ・場所 静岡県立中央図書館2階インフォメーションホール
- ・内容 昭和49(1974)年の伊豆半島沖地震と、昭和53(1978)年の伊豆大島近海地震に関する歴史的公文書を展示した。
- ・共催 静岡県法務文書課

###### (b) 今昔図書館資料

- ・日時 令和3年10月19日(火) から11月28日(日) 9時から17時
- ・場所 静岡県立中央図書館3階展示室
- ・内容 パピルスから電子書籍まで、図書館が扱ってきた「資料」に関する展示をした。

##### c Web講座 新刊サロンアーカイブ配信

- ・日時 令和3年10月19日(火) から11月7日(日) 24時間視聴可能
- ・配信サイト 静岡県立中央図書館YouTubeチャンネル
- ・内容 総再生回数1万回以上の新刊サロンの過去動画を一举に公開した。

#### (4) 図書館サポーター

##### ア 登録状況(過去3年)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
読み聞かせ	18人	登録なし	20人
館内サービス	2人	登録なし	2人
環境	2人	登録なし	1人

##### イ 活動内容

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施など。
- 館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
- 環境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

##### ウ 活動実績

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施。  
(活動実績p30参照)
- 館内サービス : 新型コロナウイルス感染症対策として活動を中止した。
- 環境 : 新型コロナウイルス感染症対策として活動を中止した。

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

7月28日(木)、29日(金)の2日間で41人の中高生を受け入れた(中学生12人、高校生29人)。なお、8月11日(木)、12日(金)の2日間も職場体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み中止とした。中止に伴う措置として、YouTube上で図書館案内の動画等を公開した。

イ インターンシップ(大学生)

受け入れなし。

ウ 社会体験研修(公立高等学校初任者研修(課題研究))

受け入れなし。

エ 施設見学・視察

校種等	校数・団体数	人数(引率者含む)
小学校	1	23
中学校	-	-
高等学校	1	9
大学・短大	-	-
図書館・県関係者	20	45
合計	22	77

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより(文化の丘)

年2回(9月初旬、2月初旬)発行。当館の事業(サービスや講座など)を広報し、図書館利用の促進を図った。

No. 370(令和3年9月)・No. 371(令和4年2月)発行 各2,000部

配布先: 県内教育委員会、県内市町立図書館等

イ 当館ウェブサイトの運用等

一般利用者向けウェブサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

ウ 公式Twitterの運用

令和2年7月からTwitterによる広報を試行し、同年8月1日から本格運用を開始した。令和3年度末現在、投稿数は702回、フォロワー数は709アカウントである。

エ 「ヒガナンに、おいでよ!」への参加

県スポーツ・文化観光部企画政策課がグランシップ広場で開催した東静岡駅南口県有地活用実証実験に令和3年11月27日(土)から29日(月)の3日間参加した。SDGsに関する資料をテーマごと袋詰めした「お楽しみぶっくろ」の貸出のほか、利用者登録や電子図書館、新館移転について広報した。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター(SPAC)及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展させるため「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を

創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当している。

#### イ 令和3年度事業実績

##### イベント等

＜共通イベント＞

・「ふじのくに文化の丘フェスタ 2021」（10月19日～11月7日）

#### (8) 浙江図書館との友好提携

##### ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

##### イ 令和3年度の実績

###### (7) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈：30冊及び当館刊行物等、受贈：32冊及び逐次刊行物3タイトル（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

###### (4) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

#### (9) 山梨県立図書館との連携協定

##### ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、両館の連携により、富士山の自然、文化を情報発信している。

##### イ 令和3年度事業実績

###### (7) 連携推進協議会

・第1回（7月1日 Web開催） ・第2回（2月4日 Web開催）

###### (4) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

・中部横断自動車道山梨静岡間全線開通記念『山梨・静岡がもっと身近に！』（2月1日～2月27日・静岡県立中央図書館）

・中部横断自動車道山梨～静岡間全線開通記念『静岡・山梨がもっと身近に！』（2月18日～3月13日・山梨県立図書館）

#### (10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。なお、サービス導入に合わせて、貸出カードの郵送申込みを可能にしている。令和3年度は郵送申込みに加え、ふじのくに電子申請サービスを利用して電子申請からの申込みを可能にし、費用負担なく利用者登録が可能になった。

令和3年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

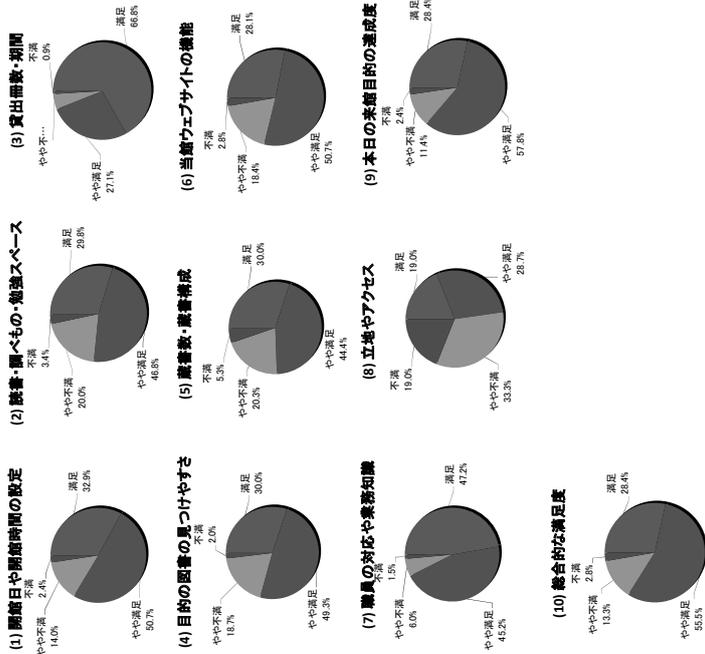
区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
伊東市立伊東図書館	160	521	H28.6～
下田市立図書館	72	358	R2.12～
函南町立図書館	129	691	H27.10～
三島市立図書館	318	1,315	H28.6～
沼津市立図書館	130	611	H28.6～
富士市立中央図書館	117	356	H28.6～
富士宮市立中央図書館	103	458	H27.10～
藤枝市立駅南図書館	371	1,182	H28.6～
焼津市立焼津図書館	211	694	R2.12～
掛川市立中央図書館	162	817	H28.6～
磐田市立中央図書館	388	1,463	H27.10～
浜松市立城北図書館	503	1,875	H27.10～
湖西市立中央図書館	45	133	R2.12～
県総合教育センター図書室	6	38	H28.6～
静岡県庁(県民サービスセンター)	190	463	R3.4～
合 計	2,905	10,975	

令和3年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果  
実施：令和3年11月1日(月)～11月30日(火) 有効回答数：300

※比率(%の合計は、無回答のため合わないことがあります。  
※令和3年度実施分から、アンケートの回答方法はWebのみとなりました。

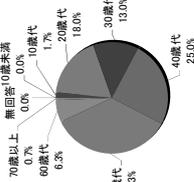
【質問1】当館の満足度

質問	満足	やや満足	やや不満足	不満足	合計	満足+やや満足	対R2比	令和2年度	令和3年度
(1) 開館日や開館時間	66	105	29	207	507	83.6%	-1.3%	85.1%	87.1%
(2) 読書・調べもの・勉強スペース	32.9%	50.7%	14.0%	2.4%	100.0%	83.6%	-1.3%	85.1%	87.1%
(3) 貸出冊数・期間	61	96	41	205	703	76.7%	-16.1%	92.8%	92.7%
(4) 目的の図書などの見つけやすさ	48	98	11	214	703	83.9%	-4.1%	98.0%	95.2%
(5) 蔵書数・蔵書構成	66.8%	21.0%	5.3%	0.9%	100.0%	93.1%	-6.6%	85.5%	89.3%
(6) 当館ウェブサイト	30.0%	49.3%	18.7%	2.0%	100.0%	79.3%	-7.3%	81.7%	80.1%
(7) 職員対応や知識	62	92	42	207	703	74.4%	-4.4%	83.2%	86.0%
(8) 立地やアクセス	61	110	40	211	703	78.8%	-4.4%	83.2%	86.0%
(9) 来館利用目的	54	90	12	199	703	92.4%	-4.5%	96.9%	95.9%
(10) 総合的な満足度	47.2%	45.2%	6.0%	1.3%	100.0%	92.4%	-28.3%	76.0%	92.0%
	19.6%	29.3%	33.2%	19.0%	100.0%	47.7%	-8.5%	94.7%	92.0%
	60	122	24	211	703	86.2%	-6.8%	90.5%	95.4%
	62	121	29	218	703	83.9%	-10.2%	89.8%	90.5%
	28.4%	55.3%	13.3%	2.8%	100.0%	79.7%	-10.2%	89.8%	90.5%
					平均				

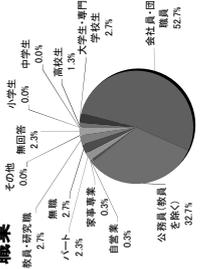


【質問2】アンケート回答者について

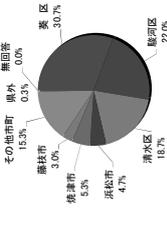
年齢



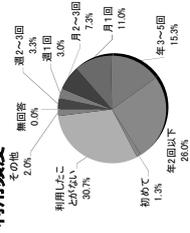
職業



住所



利用頻度



項目	回答数	割合	対R2比	令和2年度	令和3年度
10歳未満	0	0.0%	-0.5%	0.0%	1.5%
10歳代	5	1.7%	-10.9%	12.2%	10.8%
20歳代	39	13.0%	5.0%	16.6%	16.8%
30歳代	58	19.3%	5.8%	16.6%	16.8%
40歳代	75	25.0%	10.0%	15.0%	13.5%
50歳代	106	35.3%	19.8%	15.5%	16.5%
60歳以上	19	6.3%	-9.7%	16.6%	17.6%
無回答	2	0.7%	-19.8%	20.2%	2.0%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	300	100.0%			

項目	回答数	割合	対R2比	令和2年度	令和3年度
小学生	0	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
中学生	0	0.0%	-3.9%	5.2%	4.4%
高校生	4	1.3%	-3.9%	5.2%	4.4%
大学生・専門学校生	8	2.7%	-9.0%	11.7%	10.8%
会社員・団体職員	158	52.7%	23.1%	29.0%	27.0%
公務員(団体職員)	1	0.3%	-5.8%	6.1%	6.8%
家事専業	7	2.3%	-5.8%	6.1%	4.1%
自営業	8	2.7%	-1.9%	2.2%	2.9%
無職	8	2.7%	-1.9%	4.2%	7.1%
会社員・団体職員	8	2.7%	-1.9%	4.2%	7.1%
その他	0	0.0%	-3.3%	3.3%	2.6%
無回答	7	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%
合計	300	100.0%			

項目	回答数	割合	対R2比	令和2年度	令和3年度
静岡市	214	71.3%	-18.4%	89.7%	89.4%
清水区	92	30.7%	5.3%	25.4%	21.2%
駿河区	66	22.0%	-5.7%	27.7%	23.1%
清水区	34	11.3%	-17.8%	36.0%	33.1%
浜松市	14	4.7%			
藤枝市	16	5.3%			
藤枝市	9	3.0%			
その他市町	46	15.3%	7.3%	8.0%	10.3%
県外	1	0.3%			
無回答	0	0.0%	-2.3%	2.3%	0.3%
合計	300	100.0%			

項目	回答数	割合	対R2比	令和2年度	令和3年度
ほとんど毎日	0	0.0%	-1.4%	1.4%	4.1%
週2～3回	10	3.3%	-8.0%	11.3%	11.8%
週1回	9	3.0%	-12.0%	15.0%	14.1%
月2～3回	33	11.0%	-10.0%	21.3%	19.8%
月1回	33	11.0%	-10.0%	21.3%	19.8%
年3～5回	48	16.0%	9.2%	6.1%	10.0%
年1～2回	78	26.0%	21.3%	4.7%	2.9%
初めて	4	1.3%	-3.9%	5.2%	3.2%
利用したことがない	92	30.7%	0.6%	1.4%	0.3%
その他	6	2.0%	-0.5%	0.5%	0.0%
無回答	0	0.0%	-0.5%	0.5%	0.0%
合計	300	100.0%			



## 9 振興班

### (1) 市町立図書館振興

#### ア 市町立図書館運営の支援・協力

##### (7) 市町立図書館運営の支援

###### a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問合せに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。

相談内容は、イベントや図書館の ICT 環境、高齢者や障害者に対するサービスなど多岐にわたることから、他課と連携して対応している。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策に関係する質問が多くあったものの協力車訪問での聞き取り調査は休止していたため、これに代わるものとして各館の状況を任意で回答いただく形式のアンケート等を実施した。また、市町立図書館の臨時休館や館内利用の制限、イベント再開状況などを取りまとめた一覧表を作成し、定期的に市町立図書館等に提供した。

なお、令和3年度の相談件数は406件だった。

###### b 図書館未設置町への支援

静岡県内唯一の図書館未設置自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和3年度は8月3日に川根本町を訪問し、山村開発センター図書室で、特に蔵書の除籍に関する運営相談に対応した。

##### (4) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、市町立図書館等に年8回訪問する協力車の定期運行（8コース、協力車事業の統計 p55-56 参照）と、年に一度の地域館・分館訪問 41 館（定期運行に併せた訪問館と8コース（10日間））及び宅配による資料の搬送を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、9月の定期運行と2月の賀茂地区図書館研究会への講師派遣を中止し、一部の地域館・分館訪問は、日程を変更して対応した。また、悪天候により7月伊豆コースの2日目は南伊豆町のみの訪問に変更したほか、2月岳駿コースの訪問を中止した。

協力車の定期運行では、運営に関連する相談への対応や情報交換、資料の提供及び事務連絡等を実施することで、各館との連携を図った。

##### (7) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2021』、『令和3年度静岡県の図書館』を発行した。

#### イ 職員研修（別項一覧表 p43～45 参照）

#### ウ 図書館活動の振興・奨励

##### (7) 静岡県図書館大会（令和3年度静岡県図書館大会 p56～p57 参照）

##### (4) 読書活動の広報

##### (7) 読み聞かせグループ活動との連携

### (2) 関係団体との連携

#### ア 大学・専門図書館との連携

協力貸出の搬送（宅配）を実施するとともに、一部の大学・専門図書館と県内市町立図書館との間で、県立が送料を負担した相互貸借サービスも継続して実施した。（静岡大学附属図書館、静岡県男女共同参画センター図書室、静岡県総合教育センター図書室、静岡県議会図書室、静岡県立大学附属図書館、静岡県立大学短期大学部附属図書館・静岡県立大学附属図書館小鹿図書館）

#### イ 静岡県図書館協会

県内図書館の連携を図り、情報交換するとともに図書館の振興を図った。

##### (7) 静岡県図書館大会運営委員会

加盟館（室）等から募集した委員が講師との交渉や図書館大会当日の運営等の業務にあたった。

#### (4) 調査研究委員会

県内図書館の抱える課題について調査研究を行うため、加盟館（室）から委員を募集した。令和2・3年度は図書館における効果的な広報について研究を行い、報告書を作成した。

#### (ウ) 職員研修（別項一覧表 p43～45 参照）

#### (エ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

#### (オ) 『静岡県図書館協会 会報』（77・78・79号）発行

令和3年度の新型コロナウイルス感染症への市町立図書館の対応状況を会報79号に掲載した。

#### (カ) 表彰

図書館に永く勤務した職員や、図書館協議会委員に対して、その功績を称え表彰を行った。令和3年度は静岡県図書館大会がオンライン開催であったため表彰式は開催せず、賞状は受賞者に送付した。

### ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

#### (7) 優良読書グループ表彰

令和3年度は静岡県図書館大会がオンラインで開催であったため表彰式は開催せず、賞状は受賞者に送付した。

#### (イ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

#### (ウ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

2月20日に全体研修会「読み聞かせと学校図書館」（講師：本田彰氏）を当館を会場に開催した。

#### (エ) 夏休み子ども図書ウィークの協賛

新型コロナウイルス感染症の拡大により、「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」は中止し、静岡文化芸術大学「ユニバーサルデザイン絵本コンクール」の受賞作品等を展示し、折り紙教室、統計グラフ作品展を実施した。そのほかの事業については、中止となった。

### エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、問合せに対する案内や情報交換等を行った。

また、2月20日に全体研修会「読み聞かせと学校図書館」を当館を会場に開催した。講師の本田彰氏からは、学校図書館法や学習指導要領との関わり、子どもや教職員への発信やボランティア活動等についてお話を伺った。（参加者 50人）

なお、本研修会は当館の“まん延防止等重点措置期間中に主催事業を集合で行わない”という方針により、令和3年度は当館との共催を見送り、静岡県読書推進運動協議会との共催により開催された。

### (3) 協力車事業

#### ア 令和3年度訪問館数（年8回の訪問・休止月（4、8、10、11月）あり）（単位：館）

市立図書館(中央館)	市立図書館(分館)	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

#### イ 令和3年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
東 遠	4 館	7 回	駿 豆	4 館	7 回
岳 駿	4 館	6 回	伊 豆	8 館	7 回 ※一部5～6回
中 部	4 館	7 回	東 部	4 館	7 回
西 遠	3 館	7 回	中 遠	5 館	7 回
合 計					55 回（延べ日数 61 日）

※悪天候のため、7月の松崎町立図書館・西伊豆町立図書館への訪問を中止した。また、新型コロナウイルス感染拡大により2月の賀茂地区図書館研究会が延期されたため、研究会参加館への訪問を中止し、熱海市立図書館・伊東市立伊東図書館に訪問した。

ウ 令和3年度市内巡回運行状況 (単位：回)

訪問館	訪問回数
静岡県議会図書室	50
静岡県立大学附属図書館	50
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	25
静岡県男女共同参画センター図書室	50
静岡大学附属図書館	26

エ 協力車巡回と宅配による資料搬送数 (過去3年)

(7) 県立資料搬送数 (単位：点)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市立図書館	10,356	9,986	10,630
町立図書館	1,556	1,376	1,384
その他	1,830	1,414	1,328
合計	13,742	12,776	13,342

(イ) 市町等資料搬送数 (単位：点)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市立図書館	33,894	32,764	35,942
町立図書館	4,480	4,562	5,322
その他	1,220	1,576	1,432
合計	39,594	38,902	42,696

(ウ) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数 (単位：点)

各窓口	令和元年度	令和2年度	令和3年度	開始日
市町立図書館	3,492	3,330	3,496	H11. 5. 1
総合教育センター“あすなろ”	49	99	76	H11. 5. 1
県民サービスセンター(返却ポスト)※1	764	838	877	H11. 11. 1
男女共同参画センター“あざれあ”	394	484	297	H13. 2. 15
グランシップ(返却ポスト)※2	2,709	2,447	1,923	H14. 8. 13
静岡大学	379	463	465	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	28	34	39	H31. 4. 1
合計	7,815	7,695	7,173	

※1 県民サービスセンターの返却ポストを令和3年12月に廃止し、窓口返却に変更した。

※2 令和2年9月にグランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」が閉室したため、窓口返却を廃止し、返却ポストのみに変更した。

(4) 令和3年度 静岡県図書館大会

会期：令和3年11月8日(月)、9日(火)、10日(水)

会場：オンライン (Zoom) (運営会場：県立中央図書館)

参加者累計：1,463人

500人が同時閲覧できるよう静岡県図書館協会でZoomウェビナーを新規に契約した。人数制限があるため、一般参加者を募らず、静岡県図書館協会加盟館(室)、学校、教育委員会のみに参加者募集を行い、一部市町立図書館の協力の下、サテライト会場を設置した。

運営は講師とZoomを繋ぎライブ配信を基本としたが、事例発表は一部事前録画とした。例外として、第2分科会は講師が県立中央図書館に来館し、ライブ配信を行った。

また、12月12日から1月11日までの間、加盟館(室)職員に限りYouTube限定配信を行った(累計閲覧回数179回、第1分科会を除く)。

ア 全体会 (11月8日 10:00~12:00)

テーマ	「コロナ禍の図書館と今後の図書館」
情勢報告、講演	日本図書館協会理事長 植松 貞夫 氏
事例発表	三島市立図書館、沼津市立図書館、静岡市立中央図書館

イ 分科会

※大学・専門図書館の分科会は休止

1	図書館サービス (11月8日 14:00~16:00) ※県図協加盟館職員限定 「図書館の接遇~コロナ禍でも満足度の高い接遇について~」 講師: 加納 尚樹 氏 (接遇コンサルタント キハラ株式会社 Quality Improvement Manager)
2	子どもの読書活動 (11月9日 10:00~12:00) 「絵本と鳥の巣の不思議~鳥の巣が教えてくれること~」 講師: 鈴木 まもる 氏 (絵本作家、画家、鳥の巣研究家)
3	乳幼児・児童・YAに対するサービス (11月9日 14:00~16:00) 「絵本から一人読みへのステップアップ~“自分から読みたくなる”を育てるために~」 講師: 尾野 三千代 氏 (元・和光大学非常勤講師、元・東京都府中市立図書館司書)
4	学校図書館 (11月10日 15:00~17:00) 「学校図書館とエンタメ小説」 講師: 大橋 崇行 氏 (成蹊大学文学部日本文学科准教授)

(5) 表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)

例年、静岡県図書館大会において表彰式を行っていたが、令和3年度はオンライン開催のため表彰式は行わなかった。優良読書グループ表彰、全国公共図書館協議会表彰及び静岡県図書館協会表彰は、静岡県図書館大会の際に被表彰団体及び被表彰者の紹介を行った。

全国公共図書館協議会表彰	
大井 喜子 (静岡県立中央図書館協議会)	稲葉 芳之 (富士宮市立西富士図書館)
山田 由美子 (沼津市立図書館協議会)	澤島 由基乃 (掛川市立大須賀図書館)
荒木 和美 (沼津市立図書館協議会)	大石 正徳 (菊川市立図書館協議会)
静岡県図書館協会表彰	
水井 千保子 (静岡県立中央図書館)	鈴木 里美 (島田市立島田図書館)
土屋 光弘 (裾野市立鈴木図書館)	鈴木 あかね (袋井市立袋井図書館)
土屋 ゆき子 (沼津市立図書館)	西田 昌代 (浜松市立天竜図書館)
青島 貴子 (静岡市立北部図書館)	中園 久美 (浜松市立中央図書館)
佐藤 由乃 (静岡市立南部図書館)	土屋 麻子 (静岡文化芸術大学図書館・情報センター)
山田 芳久 (静岡市立清水中央図書館)	川崎 一平 (東海大学附属図書館清水図書館)
田中 邦子 (静岡市立中央図書館)	
優良読書グループ表彰	
・(公社)読書推進運動協議会長賞 三島市立図書館音訳ボランティアグループ (三島市)	
・静岡県読書推進運動協議会長賞 どんぐりころころ (伊東市)      はらぺこあおむしのおはなし会 (河津町)	
お話キャラバン (静岡市)      Peek-A-Boo (静岡市)	
「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体(者)表彰 表彰式: 令和3年11月30日(火) 静岡県庁(静岡県教育委員会教育長室)	
・小学校の部	静岡市立番町小学校
・中学校の部	富士宮市立井之頭中学校
・高等学校の部	静岡県立三島北高等学校
・特別支援学校の部	静岡県立沼津特別支援学校
・団体(者)の部	藤枝子どもと本をつなぐ会(藤枝市)      どんぐりころころ(伊東市)

## 10 総務班

### (1) 図書館協議会

#### ア 委員

任期：令和2年8月1日から令和4年7月31日まで

職名	氏名	任期	現職
会長 R3.6.23 就任	轟木堅一郎	○ R3.5.19 就任	静岡県立大学附属図書館長（静岡県立大学教授）
副会長 R3.6.23 就任	松浦 京子	○ R3.5.19 就任	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 （静岡市立美和小学校長）
委員	内山 淳子	○	東伊豆町立図書館長
委員	杉山 綾菜	○	常葉大学教育学部生涯学習学科生涯学習専攻4年
委員	鈴木 千明	○	磐田市立富士見小学校・城山中学校 図書館ボランティア 読み聞かせボランティア
委員	鈴木 真澄	○	静岡県家庭教育支援員 県PTAサポーターズ事務局長
委員	庄田 達哉	○ R2.10.1 就任	株式会社静岡新聞社 編集局出版部
委員	村松 啓至	○	磐田市教育委員会教育長
委員	山崎 克巳	○	障害者相談支援センターピロス相談支援専門員 静岡県車いす友の会役員 ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会委員
委員	吉見光太郎	○	静岡県書店商業組合理事長、株式会社吉見書店代表取締役 静岡教科書株式会社常務取締役

#### イ 協議会

##### (7) 第1回

日時：令和3年6月23日（水）午後1時30分～午後4時

出席者：委員8人（うち2名オンライン参加） 会議室

- 議事：1 令和3年度重点取組について  
2 令和3年度重点施策について  
3 新県立中央図書館整備について

報告：新県立中央図書館DX化2021について

##### (4) 第2回

日時：令和4年2月24日（木）午後1時30分～午後4時

場所：静岡県立中央図書館 中集会室

出席者：委員7人（オンライン開催）

- 議事：1 県立中央図書館の状況について  
2 令和3年度の重点取組・重点施策の評価  
3 令和4年度の基本方針と主要施策について  
4 新県立中央図書館の整備について

## (2) 施設設備の維持管理

### ア 資料棟

#### (7) 閲覧室照明改修

閲覧室内照明器具の一部を LED 化した。

#### (イ) バルコニー高圧洗浄

バルコニー床面部分の高圧洗浄を行った。

### イ インフォメーション棟

#### (7) 漏水補修

給水管老朽化による漏水が確認された箇所の補修を行った。

#### (イ) 講堂非常扉修繕

開閉不良の確認された講堂非常扉の修繕を行った。

### ウ 旧埋蔵文化財センター他

#### (7) 除湿機設置

旧埋蔵文化財センター内に保管する資料の保管環境向上のため除湿機を設置した。

#### (イ) 敷地内樹木剪定

旧埋蔵文化財センター敷地内の隣地に接する樹木の剪定を行った。

## (3) 施設利用状況

### ア 令和3年度 各施設の外部利用人数（展示室は貸出日数）

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計 (人)	展示室 (日)
上半期	50	67	140	139	77	473	183
下半期	0	435	115	88	48	686	182
合 計	50	502	255	227	125	1,159	365

※展示室は埋蔵文化財センターによる常設展示を継続して実施（4/1～3/31）

### イ 新型コロナウイルス感染症対策に伴う対応

- ・感染防止対策として、当面の間定員の1/2での利用を依頼する。
- ・他県からの利用申込については、感染状況により利用をお断りした。
- ・講堂については、座席の間隔が狭いため、定員を50人とする。

	講堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B
定員	276人	120人	50人	30人	20人
1/2	50(138)人	60人	25人	15人	10人

## 11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。5～6人で構成される館内組織横断型のワーキンググループを設置し、事業にあたっている。令和3年度は、健康医療情報コーナーをより利用しやすくするためにシリーズ別配架などの工夫を行った。また、健康医療情報講演会は、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで行った。

### (1) サービス内容

#### ア 健康医療情報コーナー

##### (7) 内容

- ・参考図書（辞書事典類）
- ・ヘルスリテラシー関連資料（ナラティブ関連資料を含む）
- ・入門書・図解シリーズ
- ・健康医療情報関係雑誌 11誌
- ・特集展示（月ごとのテーマ展示）関連資料の展示・資料リスト配布

##### (4) 特集展示のテーマ一覧

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
3～4月	健康診断	10月	目を知る
5～6月	お口の中から健康に！	11月	更年期
7月	夏の健康	12～1月	メンタルヘルス
8月	感染症	2～3月	女性のがん
9月	頭痛・めまい・耳鳴り	4～5月	遺伝

#### イ オンラインデータベース

- ・医中誌Web [特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会]  
国内発行の医学・歯学・薬学・看護学・心理学及び関連分野（スポーツ医学・獣医学など）の定期刊行物、延べ約7,000誌から収録した約1,300万件の論文情報を検索できる。
- ・ヨミドクター [読売新聞社]  
読売新聞の医療・介護・健康情報サイト。医療大全、病院の実力、医療相談室、介護シニアなどのコンテンツがあり、様々な記事が掲載されている。

### (2) 関連事業

#### ア 健康医療情報講演会

演題：「ひとりで悩まないで-AYA世代でがんを体験したわたし達からのメッセージ-」

講師： 認定NPO法人オレンジティ 中野 季里子 氏、小磯 朋子 氏

内容： 若い頃のがんを罹患された女性講師から、女性特有のがんについての体験談や予防、治療、さらには発症後の考え方や生き方などについて知る機会とする。

方法： Zoomミーティング（オンラインライブ配信）

日程： 令和4年3月5日（土） 14:00～16:00 参加人数：36人

#### イ その他

「まちの保健室」（例年、静岡県看護協会に看護師の派遣を依頼）、「出張図書館」（例年1回実施）については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を考慮して令和2年度に続き3年度も中止とした。

## 12 歴史文化情報センター（地域調査班）

### (1) 県史編さん資料の保存・整理・公開

#### ア 保存・整理

当センターは『静岡県史』編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料と他県史・県内市町村史を中心とする刊本を保管している。現在、保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

#### イ 公開

刊本・新聞は閲覧できるが、貸出はしていない。古文書類については、目録作成が終了したのから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたもののみを公開している。

また、ウェブでの公開許可が得られた資料については平成 20 年 4 月から目録公開を開始した。平成 22 年 5 月の新システム稼働に伴い、所蔵者から公開許可をいただいている資料の画像登録と公開も新たに始め、情報発信を充実させた。

令和 3 年度も引き続き古文書目録及び画像資料をウェブ公開した。また、布達及び新聞紙情報の目録も公開している。

### (2) 利用状況

令和 3 年度当センターの開館日数は 243 日、来所者人数 170 人、利用内訳は新聞閲覧点数 33 件（170 点）、古文書閲覧点数 31 件（537 点）、複写申請 93 件（683 点）、資料掲載等許可申請 43 件（44 点）、レファレンス 157 件であった。

レファレンスの内訳は以下のとおりである。

#### ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	63.06
来室	19.11
その他	17.83

#### イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	4.82
歴史・民俗について	44.58
資料利用について	38.55
その他	12.05

#### ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	38.85
一般(県外)	15.29
県庁内	4.46
研究者・学生	22.93
自治体	8.92
新聞社・出版社等	8.28
その他	1.27

### 13 資料紹介 近代行政文書について（2）

#### はじめに

天理大学附属図書館から寄贈を受けた静岡県近代行政文書に関して、前号では県知事に宛てた文書の中から<sup>まぐさば</sup>秣場と官有地について紹介した。今回は還禄士族の地券に関する文書を2つ紹介する。

1つ目は「還禄士族新地券証願」である。この資料は明治9年5月に戸長池野記三郎と区長古橋庄九郎の連名で林浜松県令に提出したものである。「佐濱村農」の山下五郎吉が静岡県士族戸田直秀の代理として申請を提出、戸長・区長が県令に「右之通還禄士族江御拂下相成候ニ付新地券證御下渡被成下候様奉願候也」としたものである（写真1）。払下げとなったのは正福寺・池丘庵・信谷寺の林で、「林反別六反四畝廿六歩」、「此地代金四圓六錢七厘」と記されている。

2つ目は「還禄士族御拂下地新地券願一筆限帳」である。こちらの資料は明治13年3月に戸長山下甚太郎が静岡県令大迫貞清に提出したものである（写真2）。先に紹介した資料と同様に代理人が申請しているが、代理人は静岡県士族の入野門親となっている。入野門親は明治2年に静岡勤番役世話役頭取を務めた人物であるが、依頼元の人物との関係については不明である。

還禄とは士族や華族の特権階級に支給された家禄などの俸禄（秩禄）を明治政府（以下、政府。）に返還することを指す。俸禄は国家財政の約3割に及んでいたため、政府は俸禄の処理に着手した。累進性の税制導入をはじめ、奉還を願った者に公債証書を発行して数ヶ年分の俸禄を一時支給する方法がとられた。また、奉還者の中で農業のための土地を望む者には、地元で支障がない場合に地価の半額で土地を得る方法があった。

ここで俸禄の支給を受けていた静岡に在住した士族の生活状況に焦点を当てたい。この士族は土地の所有を希望しておらず適当な事例とはいえないが、士族の生活状況を知るにたる事例だと考えたため提示することにした。彼は将軍に謁見できた旗本格の身分であったが、わずかな家禄の支給しか受けられず、そこから戸籍諸入用、学校入費、上記の家禄税が差し引かれていた。自宅で私塾や小学校教師を勤めるだけでなく、娘も授産所に通って裁縫の仕事をするなど、生きるために多くの仕事に追われていた状況がうかがえる。

今回は提示した2つの資料に共通する「還禄士族」から、当時の士族の経済状況に注目した内容を簡潔に述べた。資料はどちらも士族へ土地を払下げた内容であること



写真1 還禄士族新地券証願

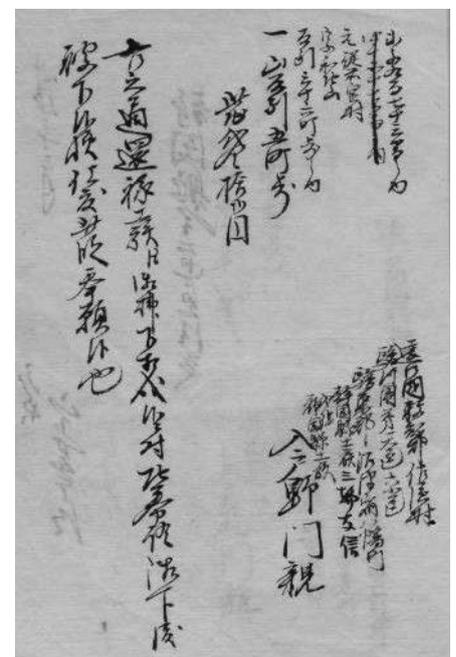


写真2 還禄士族御拂下地新地券願一筆限帳

から農業に活路を見出そうとした士族であり、当時の時代背景を探ると政府の政策が士族の生活に影響を与えていることが垣間見え、一次資料を解読することの重要性を感じた資料であった。

(文責 小杉敦士)

以下、資料の翻刻文を掲載する。

正福寺上地	駿河國第一大區二小區	記
字ムラ	阿部郡静岡旧城内	
二十番	九百五番地居住	静岡縣士族
一 林老反歩	持主 戸田直秀	
此地代金 五拾錢	代理 佐濱村農	
	山下 五郎吉	㊟

(表紙)

還禄士族新地券証願

第一大區拾六小區

敷知郡佐濱村

信谷寺上地	同断
字東のや	同断
九百五十式番	
一 林八反拾七歩	同 人
此地代金 壹円貳厘	㊟
林反別六反四畝廿六歩	総計
此地代金 四匁六錢七厘	

正福寺上地	同断
字ムラ	代理
廿九番	
一 林三反六畝九歩	山下 五郎吉
此地代金 壹円八拾壹錢五厘	㊟
池丘庵上地	
字堂のや	同断
九十五番	
一 林老反歩	同 人
此地代金 七拾五錢	㊟

右之通還禄士族江御拂下相成候二付  
 新地券證御下渡被成下候様奉願候也

戸長  
 池野記三郎 ㊦

區長  
 古橋庄九郎 ㊦

明治九年五月

林濱松縣令殿

(写真1相当部分)

式千九百七十三番之内  
 遠江國敷知郡佐濱村

元從前官林  
 駿河國第一大區六小區  
 駿東郡沼津宿八幡町

字和地山  
 静岡縣士族三輪友信

反別三十六町歩之内  
 代理  
 静岡縣士族

一 山反別五町歩  
 入戸野門親

此地代金拾貳円

右之通還禄士族江御拂下相成候二付地券證御下渡  
 被下候様仕度此段奉願候也

明治十三年三月  
 字和地山拂下分  
 扣

還禄士族御拂下地新地券願一筆限帳

第十二大區十六小區  
 敷知郡  
 佐濱村

(写真2相当部分)

式千九百七十三番之内  
 遠江國敷知郡佐濱村

元從前官林  
 駿河國第四大區五小區安部郡  
 静岡安西巷丁目南裏町

反別三十六町歩之内  
 静岡縣士族山本凌秋

代理  
 静岡縣士族

一 山反別四町三畝歩  
 入戸野門親

此地代金拾三円三十三銭

明治十三年三月  
 戸長  
 山下甚太郎

静岡縣令大迫貞清殿

<p>元從前官林 字和地山 式千九百七十三番之内 反別三十六町歩之内</p> <p>一 山反別老町歩 此地代金老円十五銭</p>	<p>遠江國敷知郡佐濱村</p> <p>駿河國第四大區五小區 有度郡静岡寺町三丁目 静岡縣士族</p> <p>代理 前田祐利</p> <p>静岡縣士族 入戸野門親</p>
--	---

<p>元從前官林 字和地山 式千九百七十三番之内 反別三十六町歩之内</p> <p>一 山反別五町歩 此地代金拾七円</p>	<p>遠江國敷知郡佐濱村</p> <p>安房國第二天區六小區 長狹郡八色村五番屋敷 千葉縣士族伊場真</p> <p>代理 静岡縣士族</p> <p>入戸野門親</p>
--	---

【参考文献】

- 静岡県編. 静岡県史. 通史編 5 (近現代 1). 静岡, 静岡県, 1996, 967p.
- 静岡市編. 静岡市史. 近代通史編. 静岡, 静岡市, 1969, 1396p.
- 浜松市役所編. 浜松市史. 3 (近代編). 浜松, 浜松市役所, 1980, 729p.
- 樋口雄彦監修. 図説沼津兵学校. 沼津, 沼津市明治史料館, 2009, 96p.
- 前田匡一郎. 駿遠へ移住した徳川家臣団. 第3編. 静岡, 前田匡一郎, 1997, 540p.
- 前田匡一郎. 駿遠へ移住した徳川家臣団. 第5編. 静岡, 羽衣出版, 2007, 459p.

# 新県立中央図書館DX検討に関する 有識者会議 報告書



## 概要

「新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議」では、静岡県が設置する新県立中央図書館におけるDXを進めるにあたり、勘案すべき視点を以下のとおりまとめましたので、報告します。

＜新県立中央図書館が目指すべきDX＞  
ユーザーを主語とし、合理的かつ洗練された使いやすいサービスの提供

全体	視点1：県民の課題解決・交流・創造の場
個別サービス	視点2：静岡県ならではの県民参加による時間と空間を超える地域アーカイブ
	視点3：利用者が自由に選べるパーソナライズサービス
	視点4：ユーザーのモニタリングを導入したサービス向上
DX推進体制	視点5：既存の「本」という境界を溶かす新しい『読書』の形
	視点6：アジャイル手法を取り入れたシステム開発
	視点7：図書館のDXを支える体制と環境の整備
	視点8：DX推進のための有識者による継続的な支援

## ＜有識者会議概要＞

### （1）目的

新県立中央図書館は、このアフターコロナ時代において全国の都道府県立図書館の先陣を切ってスタートし、22世紀へ継続していく図書館となる。来るべき未来を予測し、時代のニーズに応えるとともに、持続可能な図書館を実現するため、社会のDX推進の状況を的確にとらえ、アフターコロナ時代の図書館の理想に対し、DXがどのように寄与できるのかを検討し、新館の計画に反映させていく。

### （2）設置期間

令和3年6月1日～令和4年3月31日

### （3）検討事項

Society5.0、超高齢社会など、社会の未来像を踏まえた新県立中央図書館の目指すべきDXの方向性（未来の技術革新を想定し検討）

## ＜委員一覧＞

（50音順、敬称略）

氏名	職名
池田 哲夫	静岡県立大学経営情報学部 教授
江草 由佳	国立教育政策研究所 総括研究官
岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド(株) 代表取締役
斉藤 和巳	神奈川大学理学部情報科学科 教授
原田 伸一郎	静岡大学情報学部情報社会学科 准教授
山岸 祐己	静岡理科大学情報学部コンピュータシステム学科 講師

## ユーザーを主語とし、合理的かつ洗練された使いやすいサービスの提供

～無限に生まれる「知」の新結合からの新たな発見や創発を誘発して、  
人々の幸せや豊かさ、静岡県の価値を向上させることを可能にする～

<有識者意見>

- 図書館DXの対象は、県民（静岡県に関心のある全世界の人々を含む）のほか、サービスを提供する側の図書館職員（市町立図書館の職員を含む）も対象である
- 全てがデジタルであることが常にハッピーをもたらすものではなく、ユーザーサイドから、最もその時々合理性が高く、決定権が与えられるような情報への接し方が出来ることが重要である
- ユーザーが主語であって、知識や情報の基盤、コモンズとしての図書館はどうあることがより望ましいのかという観点を意識するべき
- データ駆動型サービスの創出を容易にするような、図書館の組織文化の変革が重要である  
（①図書館内の働き方改革、②デジタル化（既存ワークフローやサービスのオンライン化、新たな創出）、など）

<補足>

情報技術の急激な進歩に対応するため、当報告書の内容については適宜見直しを行うこと

- ・「DX定義」を含め、当報告書の内容は2021年度時点のものであり、最終形ではないことに留意するべき
- ・有識者等を交えた検証と改善を行い、内容のブラッシュアップを図ることを検討すべき

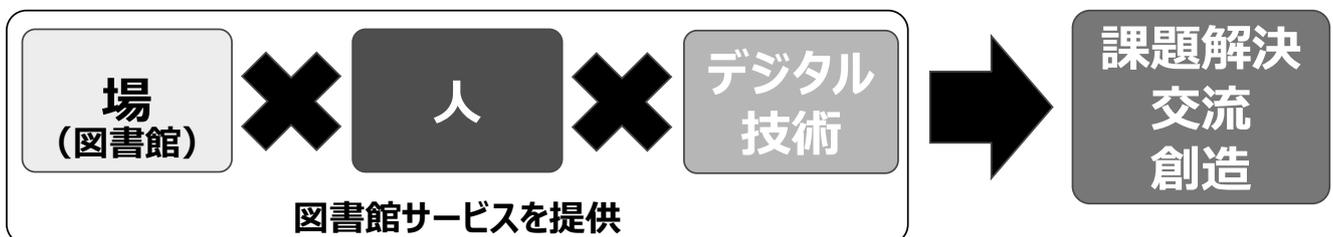
3

### 視点 1

#### 県民の課題解決・交流・創造の場

<有識者意見>

- 様々な課題を抱えている人々に対して、豊富な蔵書やデジタル技術などを活用して課題解決を支援する
- 同じ興味を持つ人を交流させるため、それぞれの人の興味がデジタル化されアーカイブされていると、様々な発展できて望ましい
- ソーシャルリーディングなどオンラインとリアルを交えた交流や、文化の創造・発信を促進する場にする（世界とつながる場）
- 情報格差の解消も図書館の役割のひとつであり、インターネットアクセス環境の整備が重要である



- 場を用意するだけで無く、民間活力を活用しつつ、図書館主導による積極的な企画運営を行う必要がある
- 図書館ユーザーと他の県民との間での双方向的な波及効果があり、図書館の従来機能の活用や新機能の発見など、様々な連携しつつ、効果がクロスしていく流れがあるとよい

次ページ  
参考

4

新県立中央図書館の特徴

① 県民の知のインフラとしての図書館

≪施設≫

確かな収蔵能力 200万冊

開架80万冊→日本一規模

ユーザーのニーズに応じた閲覧環境

研究エリア：静寂な空間を確保、個別閲覧席等

一般エリア：多少の会話を許容、居心地のよい空間

誰もが利用しやすいUD対応施設

≪サービス≫

専門的で高度なレファレンス、課題解決型支援

県内市町立図書館・学校図書館の支援

全点収集の児童書を有する子ども図書館

貴重書展示、豊富な地域資料、県史編さん資料

② 未来につながる新しいタイプの図書館

≪図書館の枠を超えた学び・交流・創造≫

多彩な情報との出会いの場

映像・実物・デジタルなど様々なメディアで情報発信

新書・マンガも含めたテーマ別配架で好奇心を刺激

人と人との出会いの場

出会い・交流する居心地の良いサードプレイス

新たな文化の創造・発信の場

県民交流・文化創造を手助けする機能の設置

≪アフターコロナ時代への対応≫

図書館のDX推進、3密の回避

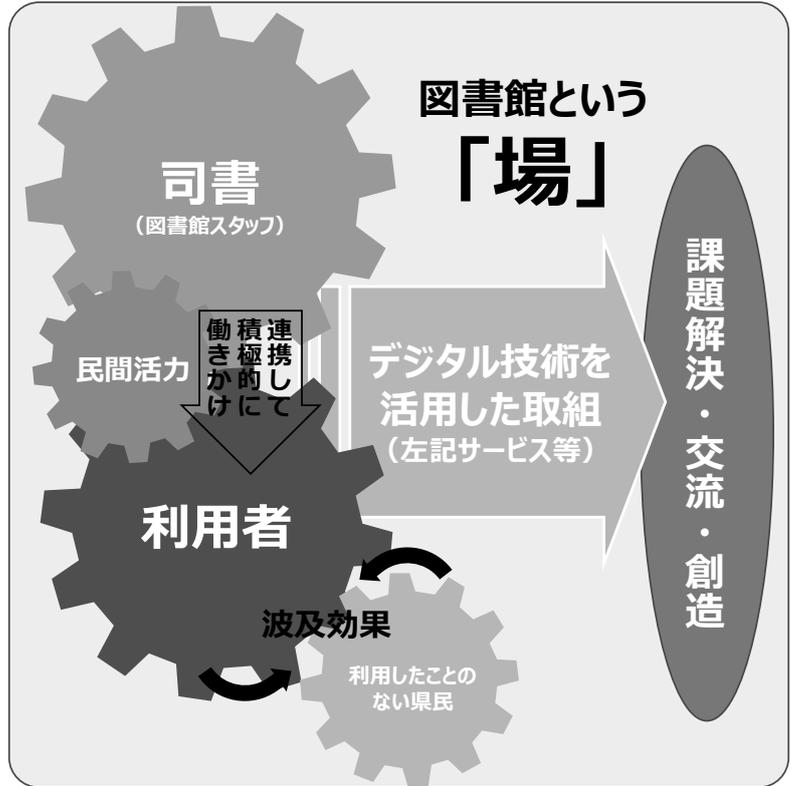
AI技術・電子書籍の拡充、非接触サービスの拡充

3密を避けた空間整備

周辺施設等との連携、リモート利用促進

既存施設を最大限活用し、地域全体で機能発揮

デジタル技術を活用し、人々のさらなる課題解決・交流・創造を促す、新時代の「情報」館を目指す



5

視点2

静岡県ならではの県民参加による時間と空間を超える地域アーカイブ

＜有識者意見＞

- ネットで多くのことが検索できる時代、国立国会図書館との違いを意識すること、それぞれの地域で特色を出すことが重要である  
※ (例：民謡や踊りといった伝承などをデジタル化しアーカイブしていく等、県が地域固有のものを絶やさず守っていく)
- 地域資料を作る県民活動を支援するためには、県民と一緒に作っていく機能が重要であるため、図書館がシステムと制度を整備し、自発的利用及び図書館主導という二方向での積極的な支援をすべき
- デジタルアーカイブを継続して運用するためには、大量のデータを保存・管理していくコストをセットで考慮する必要がある
- 静岡に関してなんでも分かる図書館サービスを提供するため、重点的にコストをかけた十分なスペックを持ったシステムが必要である

(事例：デジタル岡山大百科)

・岡山県立図書館において、岡山県に関するデジタル情報 (ビデオ、写真、音声、Webページなど) を収集しインターネット公開

・県民参加型の郷土情報募集事業を行い、岡山の観光スポットや歴史を紹介した映像・ホームページなど、数多くのデジタル情報を提供

・他の行政機関や大学、市町、教育委員会とも連携しており、例えば統廃合により廃校となった学校を含む県内校歌を収集し公開している



(引用：岡山県立図書館HPより)

(事例：VIRTUAL SHIZUOKA)

・現実空間をまるごとスキャンし、点群データの取得・蓄積およびオープンデータ化して市場に開放することで、多方面への利活用を促し、新たな価値創出を目指す構想  
・3次元点群データを活用することで、仮想空間に県土を構築し、災害発生前後の形状比較による速やかな被害状況の把握や津波浸水シミュレーション、施設の経年変化の追跡による維持管理などが可能  
・全国初の3次元点群データのオープンデータサイトを開設し、企業等が活用



① 3次元点群データを用いて表現された高架橋  
② 3次元点群データが活用されたサービス (釣リドコ)

(事例：江戸マップβ版)

・人文学オープンデータ共同利用センターにおいて、国立国会図書館が公開する古地図「江戸切絵図」を活用し、現代の東京に重ねる形で江戸時代の地図情報を提供

・古地図から地名を抽出してデータベース化するほか、現代の地図や情報とも統合することで、歴史ビッグデータや歴史GIS、江戸都市空間の地理情報基盤を構築する取組を実施

・古地図画像はIIIF規格で処理され、画像上に地図マーカーを重ねたりするなど、利用者が独自の付加情報をオーバーレイ表示することが可能



(引用：人文学オープンデータ共同利用センターHPより)

⇒静岡県ならではの史跡 (徳川氏、今川氏関連など) や所蔵する古文書等を活用したサービス提供等が可能

6

### 視点3

## 利用者が自由に選べるパーソナライズサービス

＜有識者意見＞

- 日本図書館協会は、図書館利用情報と個人情報の区別を明確にし、新基準を策定、利用情報の利活用が明示的に可となりつつある
- 静岡県立図書館ならではのパーソナライズ、その人の趣味嗜好に合った検索とリコメンドなどを取り入れることも検討すべき
- 貸出履歴の活用等を敢えて明示し、より幸福度、クオリティオブライフが高まることを打ち出した新サービスに乗り出すのもひとつの戦略であり、既存ユーザー同士を交流の場へ誘導する仕掛けも可能である
- 県民が、実験システム等で公開できる部分が、図書館システムの中で一部作れるとよい
- 個人情報やプライバシーの保護という意味でのコンプライアンスを意識する必要がある

（事例：東京都墨田区立図書館の読書記録サービス）

- ・ユーザーがこれまで閲覧した本の履歴を保存し、書名や著者名などのほか、5段階評価やコメントも記録可能
- ・読書記録サービスを本人が申し込んだ場合のみ履歴データを保存する
- ・本人操作により、貸出記録を1件毎または全件削除することが可能
- ・読書記録は個人メニュー上でのみ閲覧が可能、図書館職員は閲覧不可



（引用：東京都墨田区立図書館HP）

- ・過去3年以内にシステム更新をした340自治体のうち133自治体が、貸し出し履歴の保存機能を導入（引用：(株)カーリル調べ）

（参考：日本図書館協会「プライバシー保護ガイドライン」）

※一部抜粋

#### 4. 収集した情報の管理

##### (1) 個人情報と利用情報

キ 資料管理の範囲を超える情報の収集や管理を伴うサービスは利用者にメリット・デメリットを十分説明して理解を得たうえで、サービスを希望する利用者のみを提供する。

##### 5. 利用者による自己情報へのアクセスとコントロール

利用者は、自分の個人情報にアクセスしコントロールする権利を持つ。このことは、利用者が自分の個人情報が正確に管理されているかを確認し、適切な図書館サービスを受けるために必要である。

(4) 貸出履歴や検索履歴などを活用するサービスを導入する場合は、利用者がサービスの利用について希望者のみ選択できる方式にしなければならない。

### 視点4

## ユーザーのモニタリングを導入したサービス向上

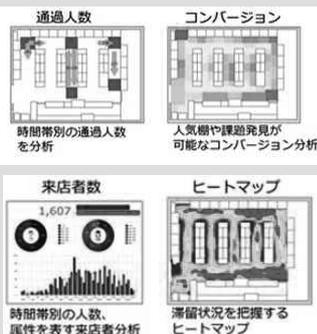
＜有識者意見＞

- ユーザーのモニタリングがサービス向上に重要であるため、人流の統計などのマクロなデータを収集し、モニタリングと連携したサービスを提供すべき
- 例えば、画像・映像認証による混雑状況の把握や利用状況の傾向分析を行い、サービス運営方針へ反映するほか、さらにはユーザー毎の属性に応じたきめ細やかな個別サービスなどが可能である
- 個人を特定しない形でのマクロなデータの活用に留め、利用者のプライバシーに最大限配慮すること

事例：ユーザーのモニタリング技術

#### ①人物行動分析

カメラ映像から、ユーザーが滞留しやすい場所や人気棚等の分析が可能



引用:NEC(株)

#### ②車両分析

駐車場カメラの映像から、駐車台数や駐車時間、車両情報（年式・型式）の分析が可能



引用:NECソリューションイノベータ(株)

#### ③利用者の属性分析

カメラ映像に映る人や様態を検知・解析し、属性に応じたサービスを提供可能

例：カメラにてユーザーの属性を判断し、自動ドアの開き時間を長くしたり、サイネージに情報を表示



引用:NECソリューションイノベータ(株)

## 視点5 (長期的視点)

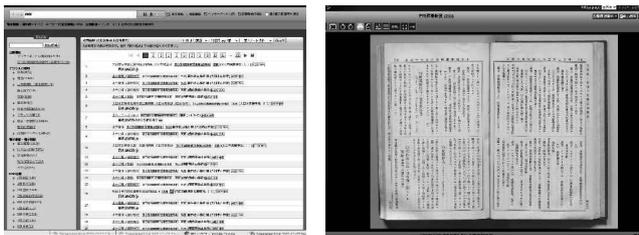
### 既存の「本」という境界を溶かす新しい『読書』の形

<有識者意見>

- 本の内容を全文テキスト化して利活用することにより、本を部分的に解体して自分用の本を作るような、既存の「本」という境界を溶かす、必要な部分だけ抽出する仕組み、新しい『読書』の形を検討すべき
- 最終的には、全国的な書籍は国立国会図書館に一つデータがあればいいという考え方もあり、静岡県独自の情報が重要となる
- 県立図書館と国立国会図書館の住み分けや関係を意識し、県が国のシステムを効果的に活用する方向性・有効性も検討すべき

(事例：国立国会図書館の取り組み)

・国立国会図書館において、2021年1月に国立国会図書館デジタルコレクションについて機能追加を行い、デジタル化資料(図書、雑誌等)の一部で、OCR処理による全文テキスト検索サービスを開始



(引用：国立国会図書館HP「デジタルコレクション」より)

・今後、『ビジョン2021-2025 国立国会図書館のデジタルシフト』の一環として、デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、来年3月までに247万点、2億2300万枚を超えるデジタル化資料をOCRテキストデータ化する取り組みを行っていることとしている (引用：LINE株式会社プレスリリース資料)

(事例：青空文庫)

- ・著作権保護期間が過ぎた作品や、著作者本人から承諾を得た作品をインターネット上で無料で全文テキストを公開するサービス
- ・明治期から昭和初期にかけての、小説、詩歌、随筆といった文学のみならず、回想録、講演録、人物伝など幅広いジャンルの作品などが、現在、約17,000点近く公開されている
- ・ボランティアにより作品の入力・校正を行う収録方式

ボランティア活動により、毎日新規作品が公開されている

各種アプリ等によりスマホ・タブレットでの閲覧・音声読み上げも可能

新書公開作品 2022年公開分

最新更新日: 2022.7.21

新書公開の進捗は、右上の進捗率を確認することができます。  
(進捗率は「公開済」の件数を基準としています。)

公開日	作品名	著者名	入力者名	校正者名	校正者名
2022-07-21	『元寇』(新編) 上巻(上巻) 上巻(上巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 下巻(下巻) 下巻(下巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 中巻(中巻) 中巻(中巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 前巻(前巻) 前巻(前巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 後巻(後巻) 後巻(後巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 終巻(終巻) 終巻(終巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	
2022-07-21	『元寇』(新編) 終巻(終巻) 終巻(終巻)	伊藤 野村	渡辺 龍一	中村 七太郎	

(引用：青空文庫HP)



(引用：株式会社プレスリリース資料「青空inBrowsers」)

⇒現状の全文テキストデータ化及び利活用は、著作権の保護期間が満了した古書が中心であり、今後の動向を注視する

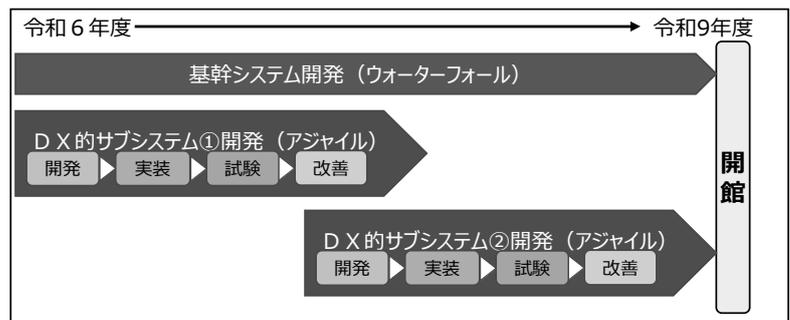
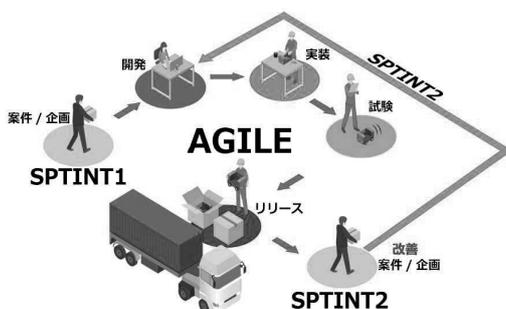
9

## 視点6

### アジャイル手法を取り入れたシステム開発

<有識者意見>

- 機動的に対応できる、作っていけるような要素を取り入れて、基本の部分と分けて構築すべき
- 基幹システム等運用上絶対に正しく動かなくてはならないものはウォーターフォール手法で進め、致命的なトラブルには繋がらないと考えられる部分は、アジャイル手法を導入し、運用していく中で検証し、仕様変更を行うのが望ましい
- アジャイルと言いつつ、非常に大きな単位(サブシステム毎など)で回すやり方もあり、スクラム型は非常に難しいため、ウォーターフォール手法に近い形を取り込むのが現実的である
- アジャイル手法を採用する場合は、少なくとも1人は専任体制が必要であり、ノウハウが共有される仕組みを構築すべき
- システム開発そのものというよりは、計画検討のプロセスそのものがアジャイル的であることが重要である



システム開発イメージ

10

## 視点7

### 図書館のDXを支える体制と環境の整備

<有識者意見>

体制

- DXはボトムアップのみで実現できるものではなく、トップの強いリーダーシップが必要である
- 図書館システムの調達とメンテナンスのためには、司書もしくは外部有識者等専門家と連携した体制の構築が重要である
- 少数の人たちだけが運営するのではなく、図書館における組織体制の底上げが必要であるため、DXを支える全ての図書館職員の育成についても検討し、民間団体（NPO含む）や大学等と連携し、計画的に取り組むべき

環境

- ユーザー及び図書館職員が容易に利用できるインターネットアクセス環境の充実が重要である
- リモートアクセス等による、職員のテレワーク環境の充実も必要である
- バックヤードや物流などにおいても、ICT環境を整備し、DXを積極的に導入すべき

## 視点8

### DX推進のための有識者による継続的な支援

<有識者意見>

- 今年度報告書を提出した後も何らかの形で会議メンバーの一部が図書館DX推進に関与する方がよい

#### 補足：今後のDX推進にあたっての留意点

- ①国の動向を注視すること
  - ・デジタル庁及びデジタル臨時行政調査会の方向性、ガバメントクラウド、各種実証実験など最新情報を収集していくこと
- ②ガラパゴス化しないこと
  - ・国内図書館システムに限定せず、海外や他産業における先進事例やDXの動向を把握し、活用を検討していくこと

11

#### 参考：用語解説

「DX」P1ほか

- ・D（デジタル）とX（トランスフォーメーション：変革）を組み合わせた言葉。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

「Society5.0」P1（出典：内閣府webサイト）

- ・サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会（超スマート社会）の実現に向けた一連の取組。

「データ駆動型サービス」P3

- ・デジタル化されたデータを収集し、これらを元にして意思決定を行い、サービスを提供していくこと。

「ソーシャルリーディング」P4

- ・SNSなどのメディアを利用して読書にまつわる情報を共有し、読書体験の向上や、読書体験を通じた人と人との繋がりを実現すること。

「デジタルアーカイブ」P6ほか（出典：図書館情報学用語辞典 第5版）

- ・有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

「オープンデータ」P6（出典：図書館情報学用語辞典 第5版）

- ・公共性の高いデータの利活用を促進するため、編集、加工、再配付等の二次利用を可能とするルールの下で提供するデータ。

「IIIF（トリプル・アイ・エフ）」P6（出典：国立国会図書館デジタルコレクションwebサイト）

- ・画像を中心とするデジタル化資料などについて、アクセスの標準化や相互運用を可能とするための国際的な枠組み。デジタルアーカイブ等に活用されている。

「パーソナライズ」P7

- ・各利用者の属性やニーズに応じて、最適な情報やサービスを提供すること。

「全文テキスト検索」P9

- ・複数の文書に対して本文全体を対象に含め、特定の文字列を網羅的に検索すること。

「OCR」P9

- ・「Optical Character Reader（光学文字認識）」の略で、文書等の画像データのテキスト部分を認識して文字データに変換すること。

「アジャイル手法」P10（出典：デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン群用語集）

- ・開発対象となる機能の設計・開発をイテレーション（反復）と呼ばれる短い期間に分けて進め、イテレーションが終了するごとに機能の動作を確認できることを特徴とした情報システム構築作業の進め方。設計・開発に着手する時点で要件が十分に固まっておらず、設計開発・途中で変更が多く発生すると見込まれる場合に用いる。

「ウォーターフォール手法」P10（出典：デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン群用語集）

- ・工程を時系列に進め、原則として前工程の完了後に次工程を開始する情報システム構築作業の進め方である。設計・開発に着手する時点で、要件がしっかり定まっており、設計・開発途中で要件の変更が少ないと見込まれる場合に用いる。

「ICT」P11（出典：図書館情報学用語辞典 第5版）

- ・Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。IT（Information Technologyの略）に比べ、情報流通の重要性を意識して用いられる。

12

### Ⅲ 特集 貴重書研究

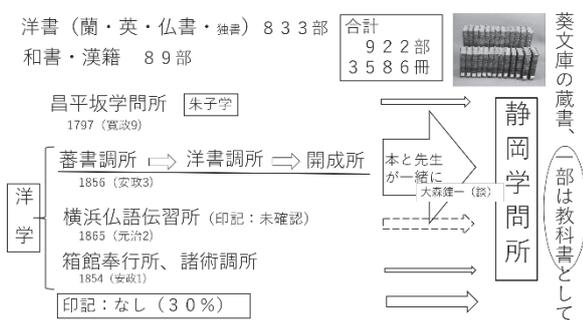
「葵文庫（江戸幕府旧蔵書）の洋学資料  
～近代化をめざした江戸幕府～」

# 葵文庫（江戸幕府旧蔵書）の洋学資料 ～近代化をめざした江戸幕府～

葵文庫の会 海老原一彦

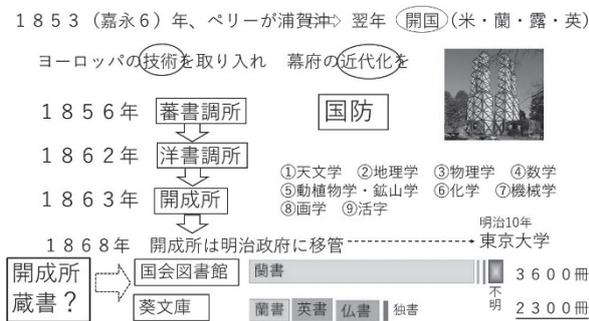
江戸幕府旧蔵書とは、蕃書調所、洋書調所、開成所、昌平坂学問所などを中心とする幕府の公的機関の旧蔵書を指し、これらの一部が1868（慶応4）年、徳川家達の駿府入封にともなって当地にもたらされ、折から駿府城内に開設された府中学問所（駿府学校、後の静岡学問所）に所蔵された。

## 【1】 静岡学問所の蔵書と教員



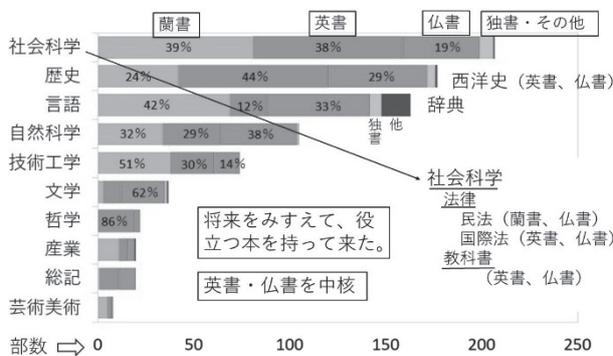
- ①葵文庫は洋書（蘭書・英書・仏書・独書・その他）833部と和書・漢籍89部で構成され、洋書が圧倒的に多い。
- ②葵文庫の中で蕃書調所、洋書調所、開成所、外国方の印記の確認される書籍は583部（洋書の内の70%）である。
- ③「徳川家が静岡へ移る際に此学校〔開成所〕の先生や本の大部分が静岡へ移ったので即ち昔の江戸の開成所が静岡へ移されたと思ってもよいのです。」（大森鐘一・談）【参考文献】（8）

## 【2】 蕃書調所の創設と開成所の蔵書



- ①ペリー来航の前後から、幕府は欧米諸国の技術を取り入れて近代化を図ろうとした。そのため幕府は開国後、蕃書調所を設けた。蕃書調所は洋書調所、開成所へと改称され、江戸幕府の崩壊により明治政府へ移管された。
- ②開成所の蔵書のうち駿府へは英書・仏書・独書の大部分を運び、蘭書は選んで運んだのではなかろうか。
- ③国立国会図書館蔵書と葵文庫蔵書とそれ以外に散在している蔵書を合わせれば、開成所の蔵書の全体がわかると思われる。

## 【3】 日本十進分類法による葵文庫の分類 部数の多い順に排列 試算



- ①葵文庫の蔵書の分類では社会科学、歴史、言語が多い。そのうち社会科学では法律書と教科書が最も多く、言語では辞典が最も多い。
- ②葵文庫の中で開成所と外国方の蔵書印を持つ書籍は英書・仏書が全体の65%を占める。これは英仏学の興隆を意味している。法律書は蘭書が多いが、フランス民法や国際法など近代国家に必要な英書・仏書の購入と、ドイツ民法やフランス民法に大きな影響を及ぼした『ローマ法大全』（1663-64）（ラテン語）（AO19）を1866（慶応2）年に購

入したことが注目される。教科書は初等・中等用が多く大部分が英書・仏書である。歴史も英書・仏書のヨーロッパ史・アメリカ史が多い。自然科学も英書・仏書が多くその内容は各分野にわたっている。葵文庫の蔵書構成からみると、開成所は英書・仏書を中核とした近代教育をめざしていたことがうかがえる。

④静岡学問所は、開成所の英書・仏書を中心とした膨大な洋書と優れた教授たちで構成された学校であった。

#### 【4】 蕃書調所以降の分類番号（分類名は現在の意味に直した）**【試算】**（講座後、追加）

	葵文庫	国会図書館		葵文庫	国会図書館
1 辞書	19	37	9 歴史	19	23
2 辞書	21	10	10 航海	4	16
3 会話文法	25	29	11 政治（法律）	25	10
4 物理学など	10	18	12 兵学	2	83
5 化学	4	16	13 建築	2	36
6 算術	10	14	14 機械工学	20	12
7 天文	2	19	15 医	0	1
8 地理	5	27	16 雑	10	64

- ①蕃書調所では蔵書を部門別に配架していた。分類は洋書調所に到って最も完備したといわれる。分類番号は一番～十六番である。
- ②葵文庫の中でこの分類番号が確認されるものは178部で、洋書の内の21%である。
- ③この分類番号のある蔵書群から駿府へ多く移したものは、法律書、機械工学書、辞書、会話文法書、歴史書で、大量の兵学書はそのまま置いてきたことがわかる。

国会図書館の部数は『洋学ことはじめ展』（蘭学資料研究会）から引用した。国会図書館の部数の中には天文方・楓山文庫旧蔵本を含むものと含まないものがあるが、ここではその内訳は省いた。【参考文献】(4)

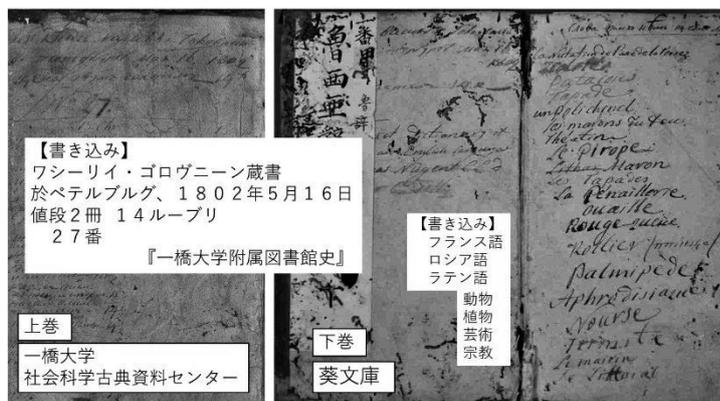
### 蕃書調所・洋書調所・開成所旧蔵書

#### 【5】『仏露辞典』下巻（タチシチェフ 1798）（A015）**【蕃書調所】**



- ①1811（文化8）年、国後島で捕らえられたロシア軍艦ディアナ号艦長ゴロウニンの所持品である。
- ②「オランダ通詞たちは、タチシチェフの仏露辞典を数頁写して、その辞典にあるフランス語のロシア語説明を日本訳しようと思いついた。そこで私たちはこの辞典を使ってその意味を説明してやった。日本人たちはそのたびに小首をかしげ、ムスガシ・コドバ、ハナハンダ・ムスガシ・コドバというのあった。」（『日本幽囚記 中』 p.187-188.より要約）【参考文献】(12)

#### 【6】ゴロウニンの書き込み『仏露辞典』（A015）**【蕃書調所】**



- ①表紙裏の書き込みから、ゴロウニンはこの辞典を1802年イギリスに留学する直前に、ペテルブルクで購入したことがわかる。それ以来この辞典はゴロウニンとともにあり、解放されて帰国する際に通詞たちに贈ったのであろう。
- ②上巻（写真左）は一橋大学社会科学古典資料センターが所蔵している。（写真提供：一橋大学社会科学古典資料センター）

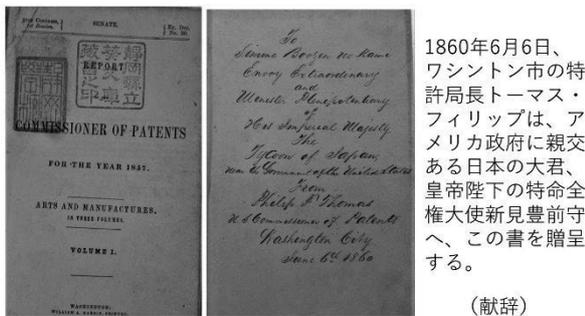
【7】『日本幽囚記』（ゴロウニン原著 1817-1818）（AN77） 【蕃書調所】

『遭厄日本紀事』（ゴロウニン原著 馬場佐十郎ほか訳）（AJ12）（11代大学頭林復斎旧蔵書）



- ①『遭厄日本紀事』は、松前でゴロウニンにロシア語を学んだ馬場佐十郎などがゴロウニン原著の『日本幽囚記』を翻訳したもの。翻訳のもとになった蘭訳本はドイツ語訳からの重訳である。
- ②『日本幽囚記』の肖像は、ゴロウニンの解放に尽力した高田屋嘉兵衛(1769-1827)である。

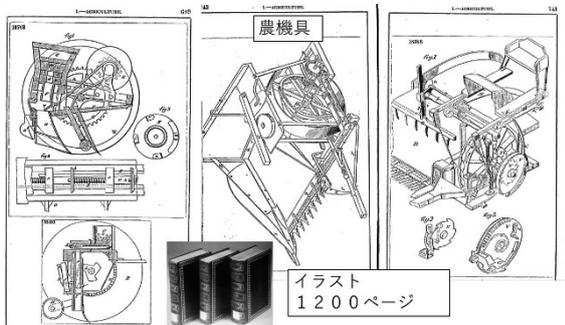
【8】『アメリカ特許局年報 1857年版』（1858）（AE264）（万延元年遣米使節将来本）【洋書調所】



1860年6月6日、ワシントン市の特許局長トーマス・フィリップは、アメリカ政府に親交ある日本の大君、皇帝陛下の特命全権大使新見豊前守へ、この書を贈呈する。

（献辞）

- ①各巻の扉には、次のような英文の献呈の辞が記されている。「1860年6月6日、ワシントン市の特許局長トーマス・フィリップは、アメリカ政府に親交ある日本の大君、皇帝陛下の特命全権大使新見豊前守へ、この書を贈呈する。」

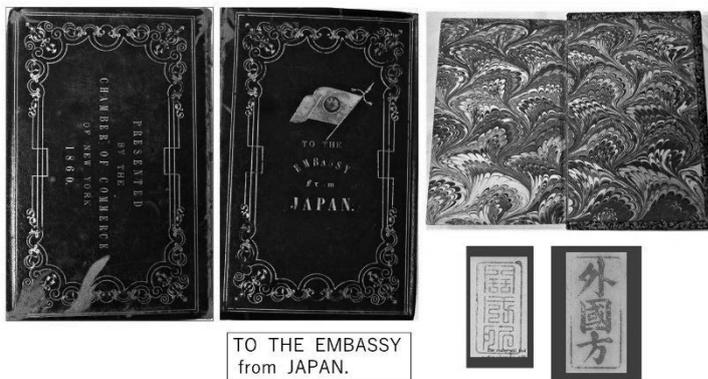


- ②このようなイラストが、1200ページにわたり掲載されている。アメリカの技術の高さがよくわかる。

【9】『ニューヨーク州商業会議所年報 1858年版』（1859）（AE247）（万延元年遣米使節将来本）

2冊所蔵

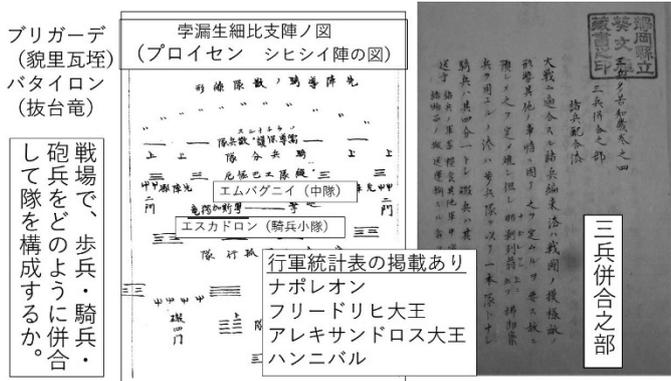
印記はそれぞれ【開成所】【外国方】



日本の使節への贈呈のために装丁したもので、表紙には日の丸が入っている。日本との貿易拡大に期待を込めたのであろう。

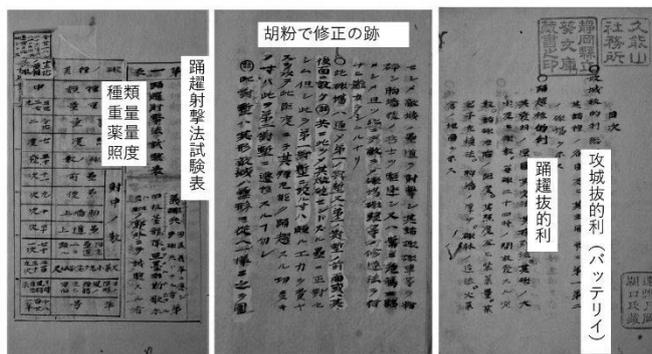
## 昌平坂学問所旧蔵書

- 【10】『三兵答古知幾』（プラント原著（独語）、ミュルケン訳（蘭語）、高野長英（蘭語本を翻訳））  
 (AJ22) 【番外書冊】（昌平坂学問所蔵書印）（写本）



- ①当時のヨーロッパにおける最も斬新で優れた戦術書といわれる。
- ②「三兵」とは歩兵・騎兵・砲兵をさす。「答古知幾」とは、Taktiek の音訳で「戦術」の意味。
- ③古今の名将の行軍統計表があるのは、機動性が戦略の重大な要素と考えられていたためであろう。
- ④当時の翻訳書は歩兵教練書や砲術書が中心であり、戦略理論の概念を持たなかった識者に大きな影響を与えた。

- 【11】『砲家必読』（G. J. Stieltjes 原著 高野長英の再校自筆本）(Q396-2)（久能文庫）



- ①高野長英が伊達宗城に招かれて、宇和島に潜伏中に翻訳した自筆原稿である。砲台の構築方法などが書かれている。
- ②胡粉によって修正した箇所がいたるところあり、長英の翻訳における苦心がしのばれる。
- ③この書をもとに宇和島藩では砲台が築かれた。

## 印記のない蔵書

- 【12】『蘭仏辞典』（ハルマ 1729）(AN79)



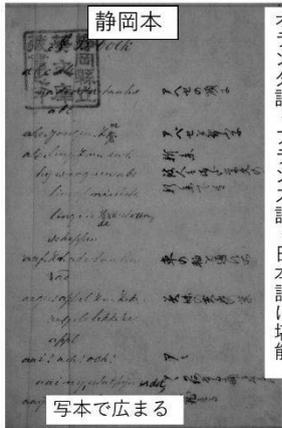
- ①フランソワ・ハルマが編集したオランダ語とフランス語の対訳辞書である。江戸時代で最も古くから知られた辞書で、江戸期の蘭学の発展に大きく寄与した。
- ②貼紙に「二番 甲 ハルマ 和蘭佛郎西對訳辞書 辞之廿四 千七百二十九年 楓山 全二冊 上」とある。「楓山」とは江戸城内にあった御文庫（紅葉山文庫）のことで、ここから移管されたことがわかる。

【13】『ゾーフ・ハルマ（長崎ハルマ）』（画像・右）（ゾーフ1816年成立、1833年完成）(K070-3)



蘭仏辞典（ハルマ編）

ゾーフ・ハルマ（長崎ハルマ）



静岡本

写本で広まる

日本に19年間滞在  
オランダ語・フランス語・日本語に堪能

オランダの商館長・ゾーフが作った

- ①オランダの商館長ヘンドリック・ゾーフが長崎通詞と協力して編集した蘭和辞典である。『蘭仏辞典』（ハルマ編）をもとにして作った。約4万5千の単語と5万余の短句・短文からなる。「長崎ハルマ」とも呼ばれた。
- ②わかりやすい日本語にするために口語を採用して、長崎の方言も使った。
- ③蘭学者に大きな影響を与え、多くの人に書写された。

【14】『和蘭字彙』（桂川甫周 1855）(AN283)

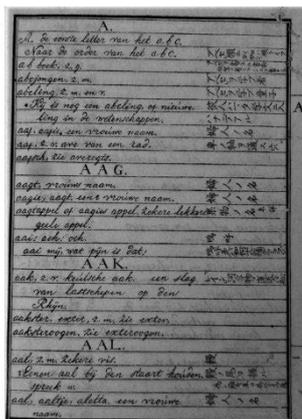


刊本

安政乙卯新鑄  
侍醫法眼桂川甫周感梓  
和蘭字彙  
大辞典

安政二年（1855）

桂川甫周（30歳）



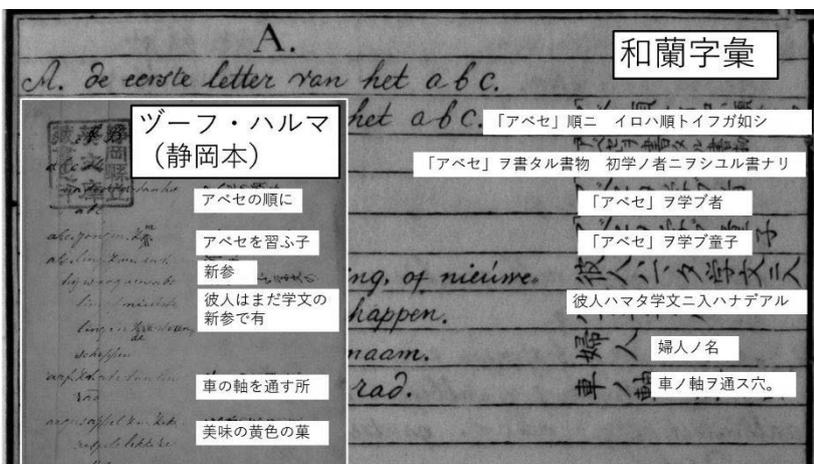
ゾーフの原文を尊重したい

【例言】

- ①『ゾーフ・ハルマ』の需要が大きかったので、桂川甫周が幕府の許可を得て、書名を『和蘭字彙』として出版した。内容はまったく『ゾーフ・ハルマ』であるといわれる。
- ②甫周は多忙であったため、実際の校訂は20歳前後の若い人たちによって行われた。桂川家の総力をあげた事業であった。
- ③『ハルマ和解（江戸ハルマ）』も同じ『蘭仏辞典』（ハルマ編）をもとに作られたが、『ゾーフ・ハルマ』が『和蘭字彙』に忠実に

受け継がれた理由の一つは、通俗的なわかりやすい日本語を用いて訳出した点にあるといわれている。

【15】『ゾーフ・ハルマ』（画像・左）と『和蘭字彙』（画像・右）



ゾーフ・ハルマ（静岡本）

和蘭字彙

アベセの順に

アベセを習ふ子

新参 彼人はまだ学文の新参で有

車の軸を通す所

美味の黄色の菓

「アベセ」順ニ イロハ順トイフガ如シ

「アベセ」ヲ書タル書物 初学ノ者ニヲシユル書ナリ

「アベセ」ヲ学ブ者

「アベセ」ヲ学ブ童子

彼人ハマタ学文ニ入ナデアル

婦人ノ名

車ノ軸ヲ通ス穴

- ①静岡県立中央図書館所蔵の『ゾーフ・ハルマ』は、初稿本系に近いものであろうといわれている。
- ②静岡本の蘭文は流れるような美しい筆記体で、全巻とも同一人か、同程度の力量を持った者によると想像される。日本語の訳文は数人の手になるものと考えられる。
- ③静岡本は伝本研究上きわめて貴重で、重要な史的位置を占めているといわれる。

【16】『改正増補訳鍵』（広田憲寛 1857）(K012-51)

『英和对訳袖珍辞書』（複製本）（堀達之助 1862）(830.3-110)



1857年  
(安政4)



英和对訳袖珍辞書  
(複製本)

1862年  
(文久2)



日本最初の印刷による英和辞典



『改正増補訳鍵』

『和蘭字彙』を参考にした『訳鍵』を増補改訂し、さらに品詞の略語を入れた。収録語数は約3万語である。

『英和对訳袖珍辞書』

①ピカルト編『新ポケット英蘭辞典』をもとに作られた。この辞書の英語—オランダ語のうち、対訳のオランダ語の部分、主として『和蘭字彙』の訳語によって翻訳した。袖珍とは pocket の訳である。収録語数は約3万7千語である。

②『英和对訳袖珍辞書』は、わが国では活字本として最初に刊行された英和辞典で、蘭学研究成果を英学へ継承した業績として、洋学史上大きな意義がある。

【17】『厚生新編』（AJ8, AJ9）

献上本  
馬場佐十郎(貞由) (24歳)  
大槻玄沢(茂質) (55歳)  
を含む

厚生新編  
訳編初稿大意

官府御蔵和蘭シヨメールといふ書八巻を発下し給ひ、訳生貞由をして別に此編全部を和解訳文として上るべきよし、の厳命を奉ず

稿本70巻

桂川甫周  
月池源家藏  
野村台助の兒  
全圖

静電気

電氣

大槻玄沢  
宇田川玄真  
大槻良賢  
宇田實玄  
澤校

- ①フランスのショメールの『家庭用百科事典』の蘭訳本を原本とした訳稿。70巻を所蔵。
- ②この翻訳は蛮書和解御用の事業として1811（文化8）年から始められ、30年以上続けられた江戸時代最大の翻訳事業である。
- ③翻訳に従事したのは、当初は馬場佐十郎（貞由）と大槻玄沢（茂質）であったが、その後十余名の蘭学者が事業を継続した。
- ④蘭書の翻訳だけでなく、多くの文献資料を学習して翻訳し、訳者の知的内容の豊かな註が多い。  
[内容の例]「越列吉低力的乙多（エレキチイリテイ）」（摩擦起電機）
  - ・エレキテルとはなにか。
  - ・桂川甫周所蔵のエレキテル（図）の紹介。
  - ・平賀源内がエレキテルを修理したこと。
  - ・1804（文化元）年にロシアの使節[レザノフ]が長崎へエレキテルを持ってきたこと。
  - ・ロシアから帰国した大黒屋光太夫の伝聞（ロシアでのエレキテル使用の例）。
  - ・本文（蘭文）の訳文。

⑤『厚生新編』の翻訳は、天文方に設置した蛮書和解御用の主要な業務となった。蛮書和解御用の機能は蕃書調所の創設に引き継がれ、蕃書調所はその後、洋書調所、開成所と改称され、開成所では科学技術の学科も設けられた。開成所は明治の初めに大学南校となり、それが今の東京大学の淵源となった。

## 【18】『世界四大洲新地図帳』（コーフェン、モルティール共編）（AN284）



- ①1700年代の地図を収録したもの。総皮表紙の大型豪華本である
- ②地図上にはオランダ通詞本木良永が墨書したと思われる和訳地名の金銀紙が貼付されている。
- ③日本地図はドイツ人ケンペル著の『日本誌』のものと同ーである。
- ④裏見返しに「丙辰 天臺」の貼紙がある。これは1856（安政3）年、天文台から蕃書調所への移管を意味するものと考えられている。

⑤本書に添付された付箋の素稿は、長崎市のシーボルト記念館に所蔵されている。

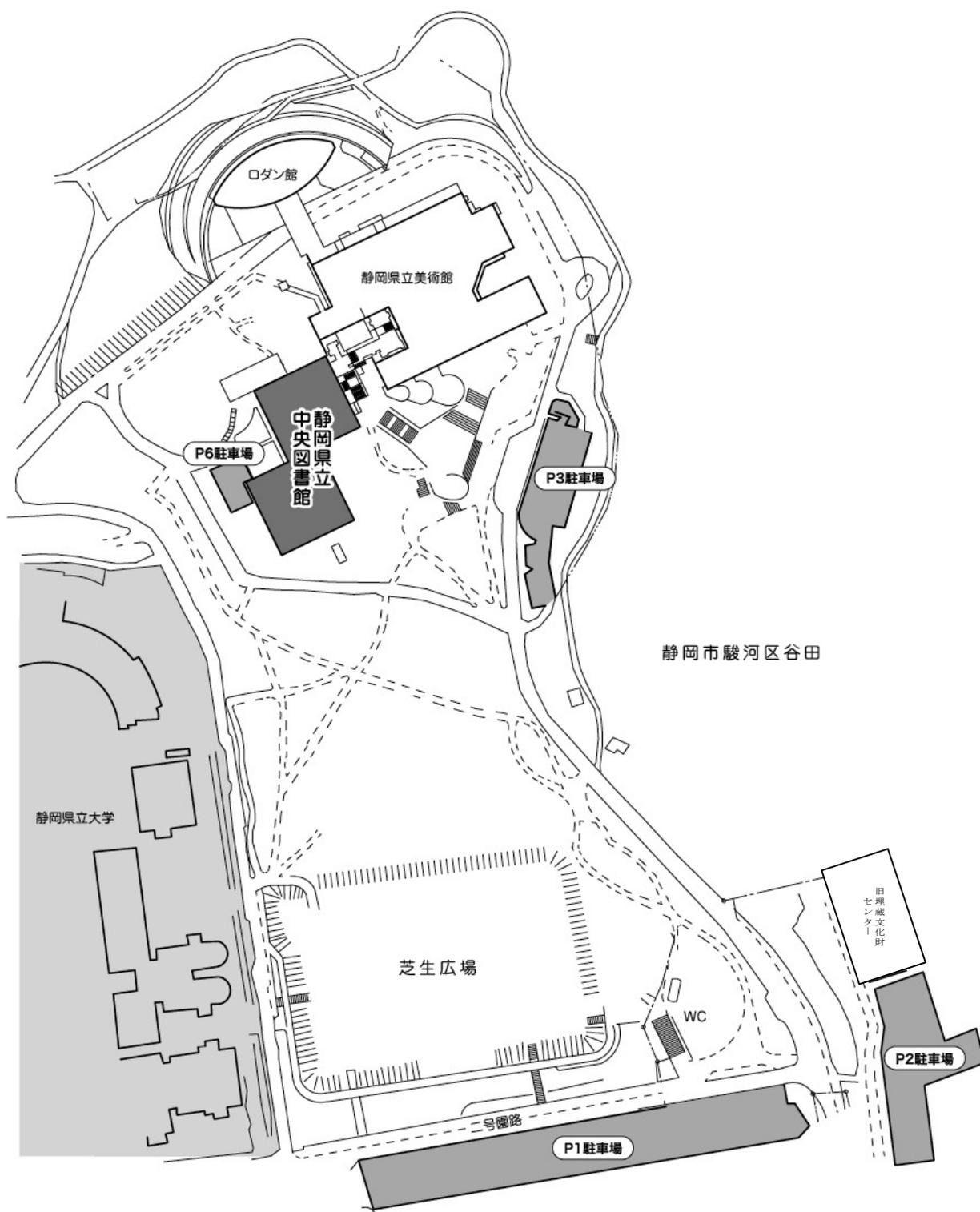
⑥本書は、1786（天明6）年オランダ船 *Geregtigheid* 号によってバタビアに入港し、そこで3年間留め置かれ、1789（寛政元）年 *Recht door Zee* 号でバタビアを出港し長崎出島に運ばれた。このことはオランダ国立文書館の史料を調査して判明した。日本に到着後は、直ちに本木良永によって訳述が行われた。

### 【参考文献】

- (1) 静岡県立中央図書館編『江戸幕府旧蔵図書目録 葵文庫目録』（静岡県立中央図書館 1970）(S020/2-6)
- (2) 蘭学資料研究会編『江戸幕府旧蔵洋書目録』（蘭学資料研究会 1957）(028/154)
- (3) 日蘭学会編『江戸幕府旧蔵蘭書総合目録』（日蘭学会 1980）(028/ニチ)
- (4) 『洋学ことはじめ展－蘭学の諸系列と江戸幕府旧蔵本－』（蘭学資料研究会 1954）(402.1/22)
- (5) 朝倉治彦ほか「蕃書調所旧蔵蘭書割記」『上野図書館紀要』（上野図書館 第1冊）(Z01/11)
- (6) 安江明夫「『蘭書』発見記補遺」『参考書誌研究』（国立国会図書館 第79号）(Z02/11)
- (7) 倉沢剛『幕末教育史の研究 1 一直轄学校政策一』（吉川弘文館 1983）(372.1/265)
- (8) 故大森男爵事歴編纂会編『大森鐘一』（故大森鐘一事歴編纂会 1930）(S289/オ17)
- (9) 日蘭学会編『洋学史事典』（雄松堂出版 1984）(402.1/ニチ)
- (10) 『洋学史研究事典』（洋学史学会監修 思文閣出版 2021）(402.10/アオ/2021)
- (11) 石田徳行「静岡県立中央図書館蔵 江戸幕府旧蔵書（所謂葵文庫）考」『地方史静岡』（地方史静岡刊行会 5号 1975.10）(SZ20/1)
- (12) ゴロヴニン／著 井上満／訳『日本幽囚記 上、中、下』（岩波書店 1948）(K381/694)
- (13) 中村喜和「館蔵『仏露字書』綺談」『一橋大学附属図書館史』（一橋大学 1975）(017.7/109)
- (14) 監察小栗忠順の従者／著 矢島一／現代語訳・解説『メリケン紀行 万延元年遣米使節の軌跡』（静岡新聞社 2019）(S020/175)
- (15) 宮永孝『万延元年の遣米使節団』（講談社 2005）(080/コウ/1699)
- (16) 高野長英『高野長英全集』第3巻、第5巻（高野長英全集刊行会 第一書房 1978, 1980）(081.5/タ1-2)
- (17) 佐藤昌介『高野長英』（岩波書店 1997）(080/イフ/512)
- (18) 杉本つとむ『江戸時代蘭語学の成立とその展開 III』（早稲田大学出版部 1978）(849/2)
- (19) 今泉源吉『蘭学の家 桂川の人々（最終篇）』（篠崎書林 1969）(402.10/2)
- (20) 永嶋大典『蘭和・英和辞書発達史』（講談社 1970）(830.1/102)
- (21) 杉本つとむ『江戸時代西洋百科事典一『厚生新編』の研究一』（雄山閣出版 1998）(031/スキ)
- (22) 板沢武雄『日蘭文化交渉史の研究』（吉川弘文館 1959）(215.9/5)
- (23) 堀尾弘和「コーフェン・モルティール版『世界四大洲新地図帳』の来歴と国名・地名訳付箋について」『葵 静岡県立中央図書館報』39号(SZ01/3)

## IV 施設及びサービス案内 (令和4年度)

# 1 図書館配置図



## 2 施設の概要

### (1) 静岡県立中央図書館

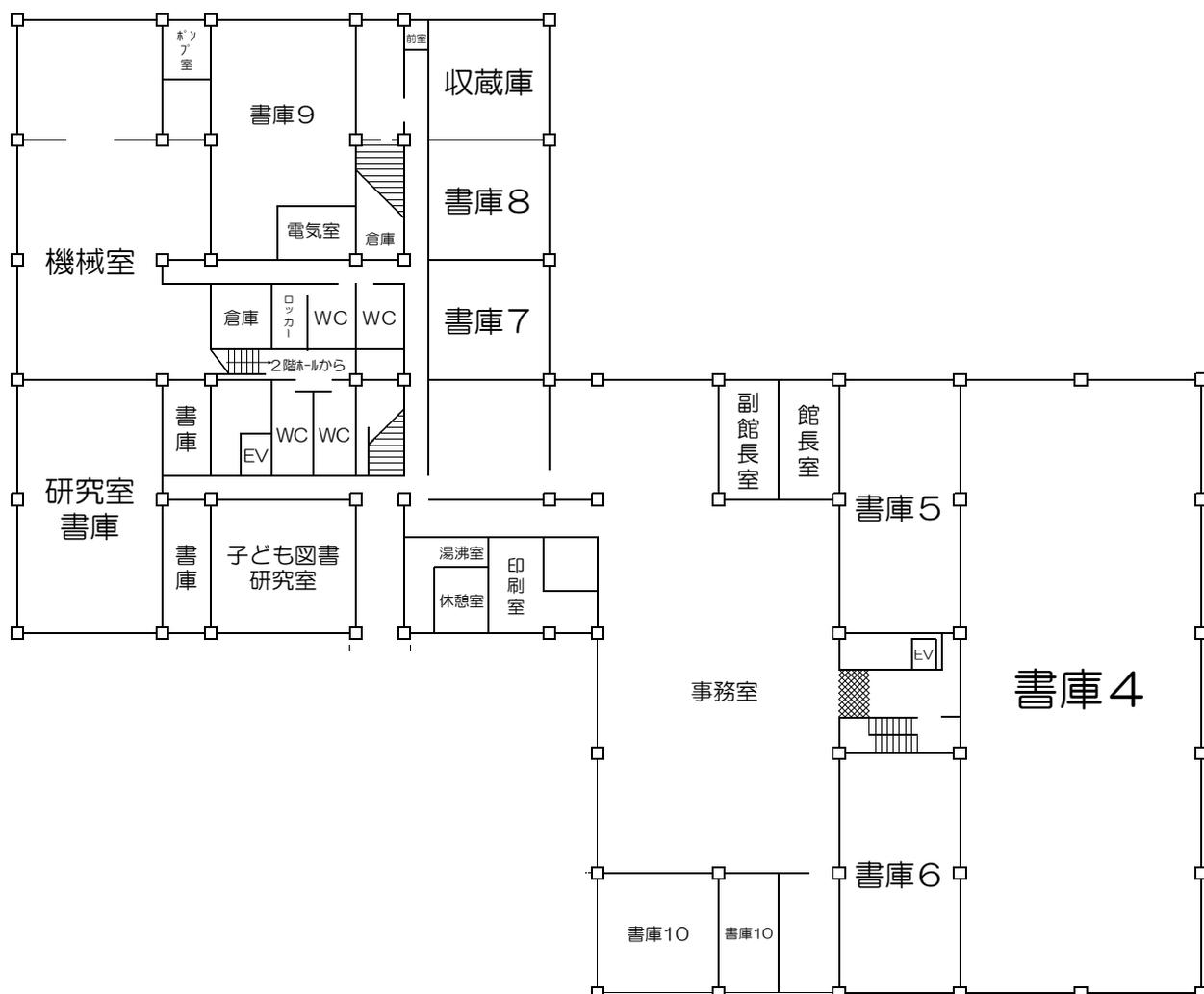
- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m<sup>2</sup>
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m<sup>2</sup> 188席) 書庫 (延2,515.56 m<sup>2</sup>) 子ども図書研究室 (92.00 m<sup>2</sup>)  
事務室 (593.60 m<sup>2</sup>) 電算室 (96.00 m<sup>2</sup>)

.....

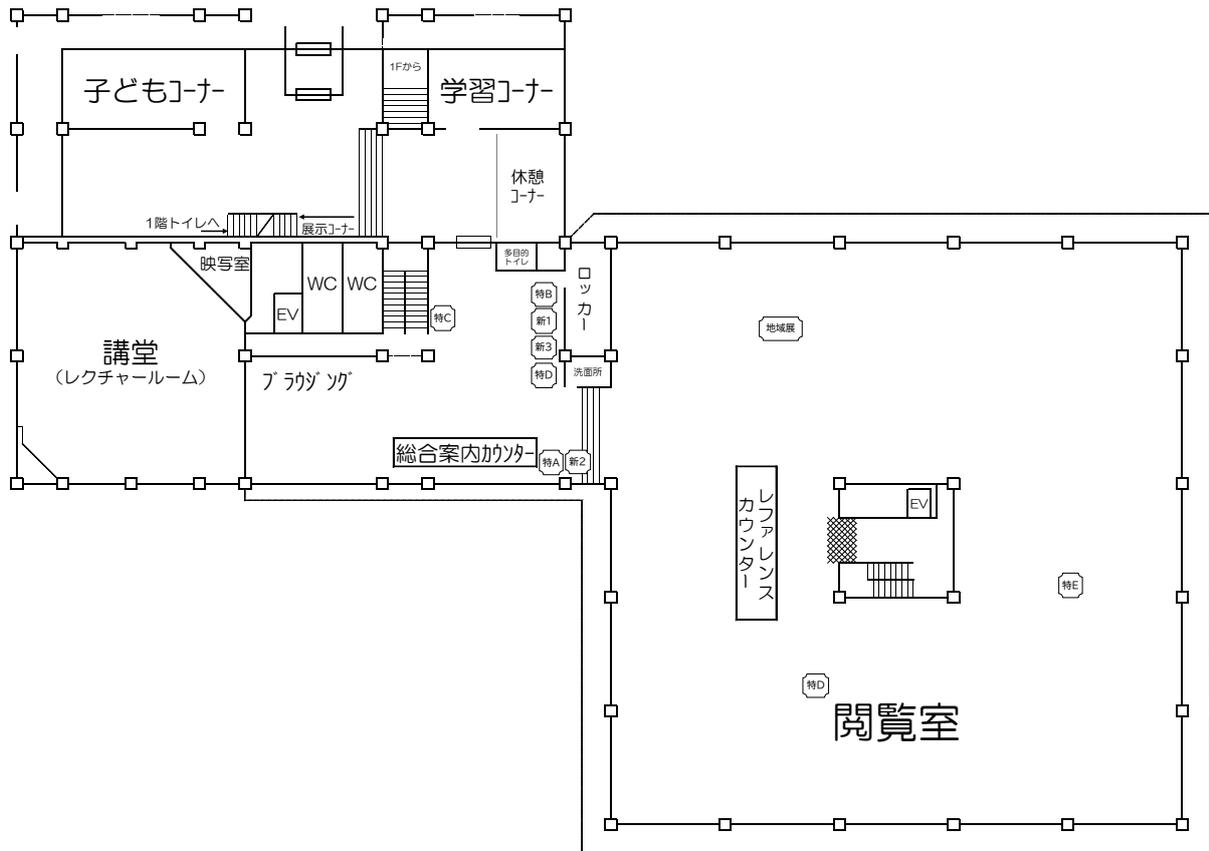
講堂 (276人) 会議室 (120人)  
中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)  
展示室 (延壁90 m<sup>2</sup>)

- ・平面図 (以下のとおり)

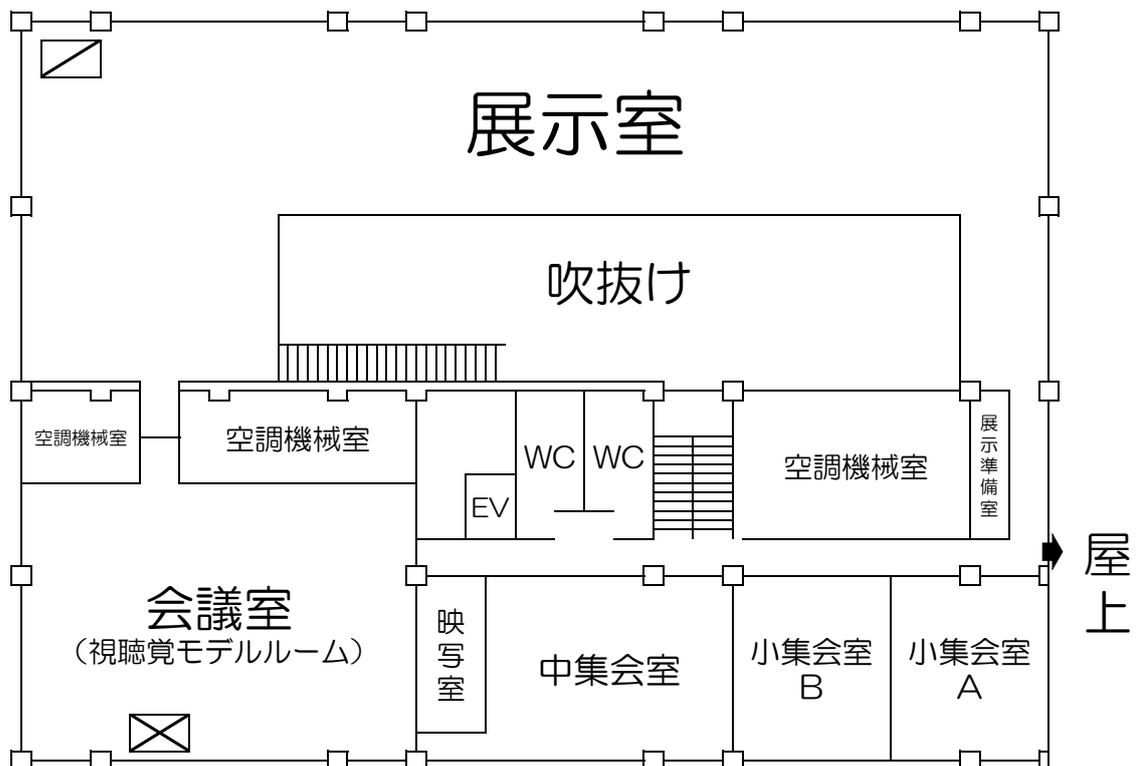
1階

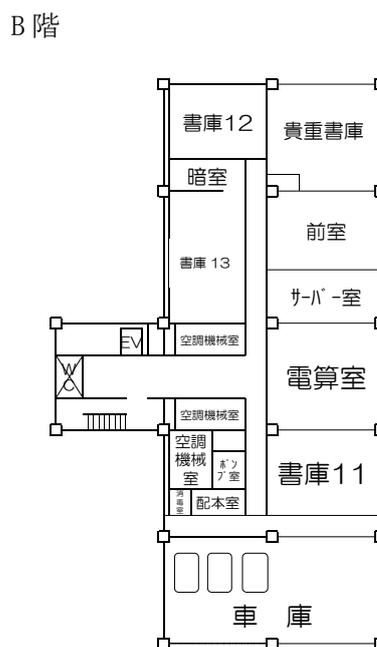
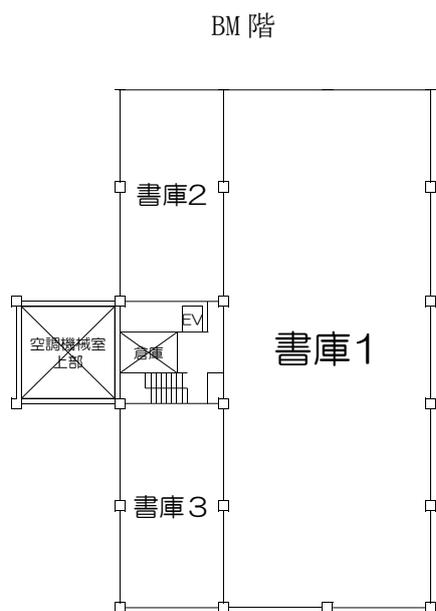


2階



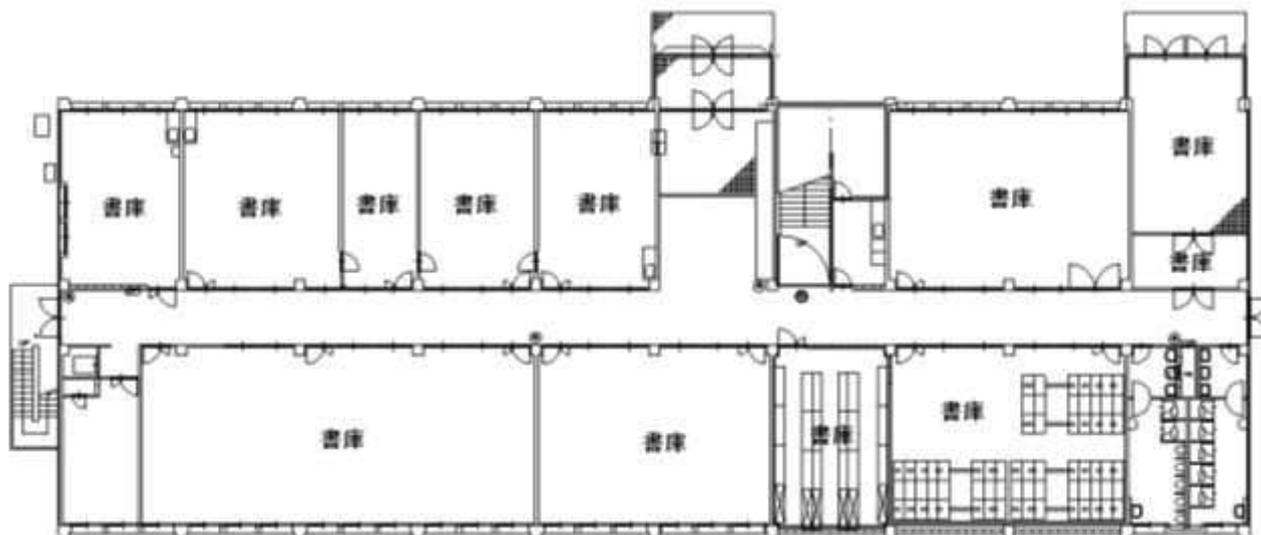
3階





(2) 旧埋蔵文化財センター

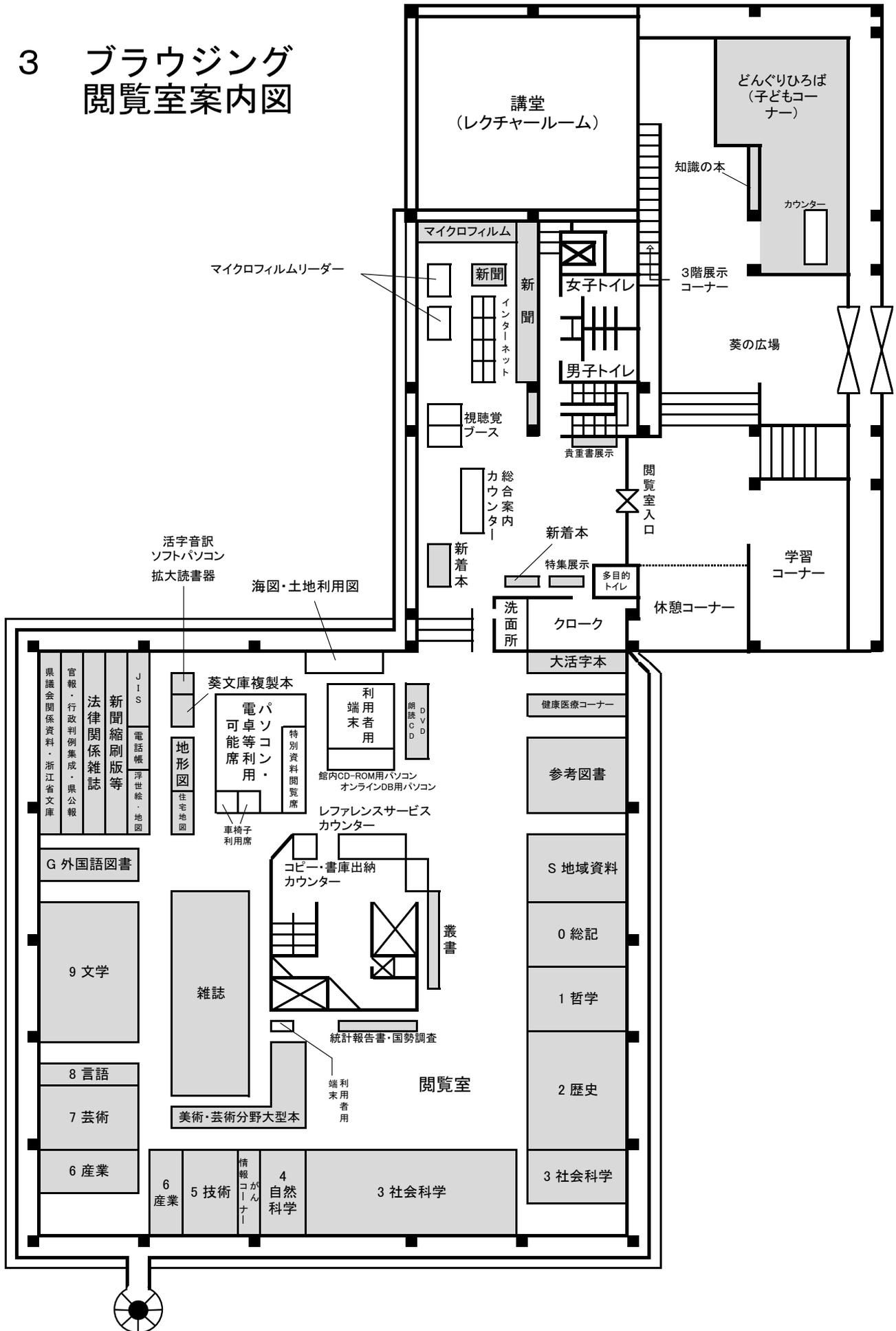
- ・鉄筋コンクリート 地上2階
- ・延面積 2,176.73 m<sup>2</sup>
- ・主な施設 1階部分を書庫として使用 (1,070.52 m<sup>2</sup>)



(3) その他建物

- ・自転車置場 107.10 m<sup>2</sup>
- ・旧埋蔵文化財センター機械室 154.68 m<sup>2</sup>
- ・ " プレハブ棟 328.06 m<sup>2</sup>

### 3 ブラウジング 閲覧室案内図



## 4 利用案内（令和4年度）

### ＝静岡県立中央図書館＝

#### ◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

#### ◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

#### ◆資料

- 一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料・電子書籍
  - 新聞・雑誌・マイクロフィルム
  - DVD・朗読CD等視聴覚資料
  - 特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）
- 原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要  
問合せ先 調査課一般調査班（TEL 054-262-1244）

#### ◆閲覧・貸出・複写

- 閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席
- 図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点、22日以内  
視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内  
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（運転免許証等）
- 資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

#### ◆総務課（TEL 262-1242）

- 図書館運営に関すること。
- 図書館協議会に関すること。
- 予算、決算及び会計に関すること。
- 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- 施設等の管理及び運営に関すること。
- 財産及び物品の管理に関すること。
- 講堂、会議室の利用に関すること。

#### ◆企画振興課（TEL 262-1246）

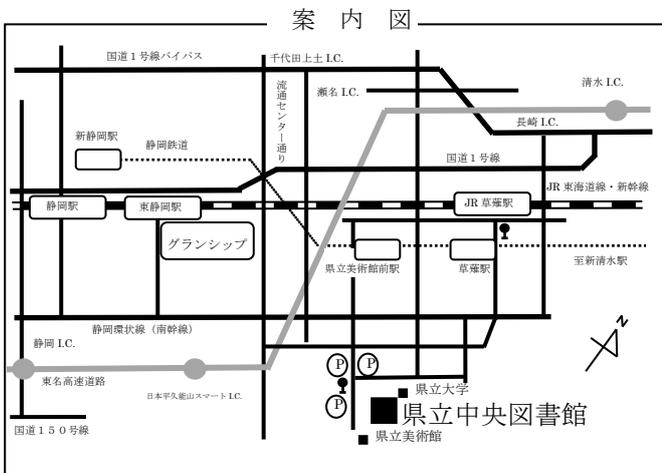
- 図書館業務の企画、調査及び広報に関すること。
- 図書館職員の研修に関すること。
- 図書館講座・展示会の開催に関すること。
- 公共図書館運営の支援及び協力に関すること。
- 情報システムの管理、運用及び調整に関すること。
- 関係団体に関すること。
- 新館整備検討に関すること。

#### ◆資料課（TEL 262-1243）

- 一般資料、外国語資料、児童資料、視聴覚資料、逐次刊行物の受入れ及び整理に関すること。
- 資料の相互貸借・協力貸出に関すること。
- 寄贈資料に関すること。
- 閲覧業務に関すること。
- 子どもコーナー「どんぐりひろば」、子ども図書研究室に関すること。
- 静岡県視聴覚ライブラリーの資料に関すること。

#### ◆調査課（TEL 262-1244、1245）

- レファレンスに関すること。
- 特別取扱資料に関すること。
- 資料の掲載等に関すること。
- 地域資料の収集、整理、保存に関すること。
- 障害者サービス、健康医療情報サービスの統括に関すること。
- 歴史文化情報センターに関すること。
- 静岡駿河区教科書センターに関すること。



所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

## ＝歴史文化情報センター＝

### ◆開館時間

午前9時～午後5時

### ◆休館日

土曜日

日曜日

国民の祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

### ◆資料

- 静岡県史・静岡県史研究・静岡県史だよりなど
- 明治時代以降の県内発行の新聞
- 他府県史・他都道府県の市町村史
- 古文書、新聞等の複写及びマイクロフィルム

### ◆業務内容

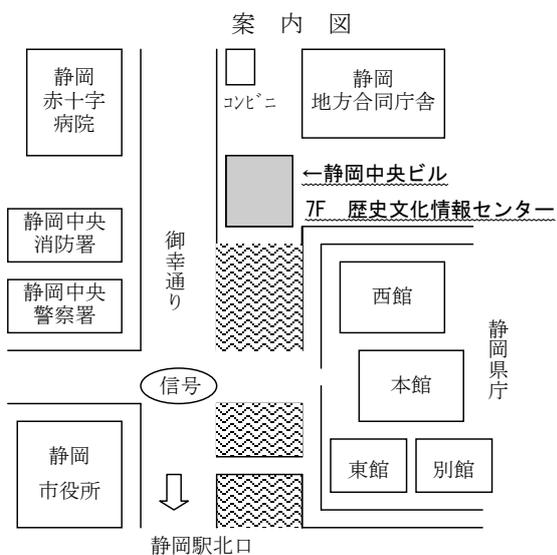
- 県史編さんの収集資料の保存・整理・公開に関すること。
- 刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問い合わせへの回答。
- 開架図書・資料の公開

所在地 〒420-0853

静岡市葵区追手町9-18（静岡中央ビル7F）

TEL 054-221-8228

FAX 054-255-3988





表紙 『上村翁旧蔵浮世絵集（38）』

当館請求記号：K915-108-038-077

画題（題名）：堀部弥兵衛源金丸 原総右衛門平元辰

絵師（画工名）：芳年筆印

版元：丸屋甚八

出版年：明治2年（1869）

員数：1枚

版型：中判

彩色：錦絵

〈上村翁旧蔵浮世絵について〉

当館が所蔵している約 5,000 枚にのぼる浮世絵は、山形県米沢市出身の上村順太郎氏が集めたもので、昭和 11（1936）年、嗣子五郎氏により寄贈されたものです。作者別に見ると、三代豊国の作品が最も多く、国周、芳年、周延、国芳と続き、幕末から明治の作品がほとんどです。ジャンルとしては、役者絵が圧倒的な数を占めます。（「葵」30号参照）

この表紙の浮世絵は、仮名手本忠臣蔵の登場人物堀部弥兵衛を描いたものです。

## 葵 56 号

令和4年6月1日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒 422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242(代)

F A X (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

